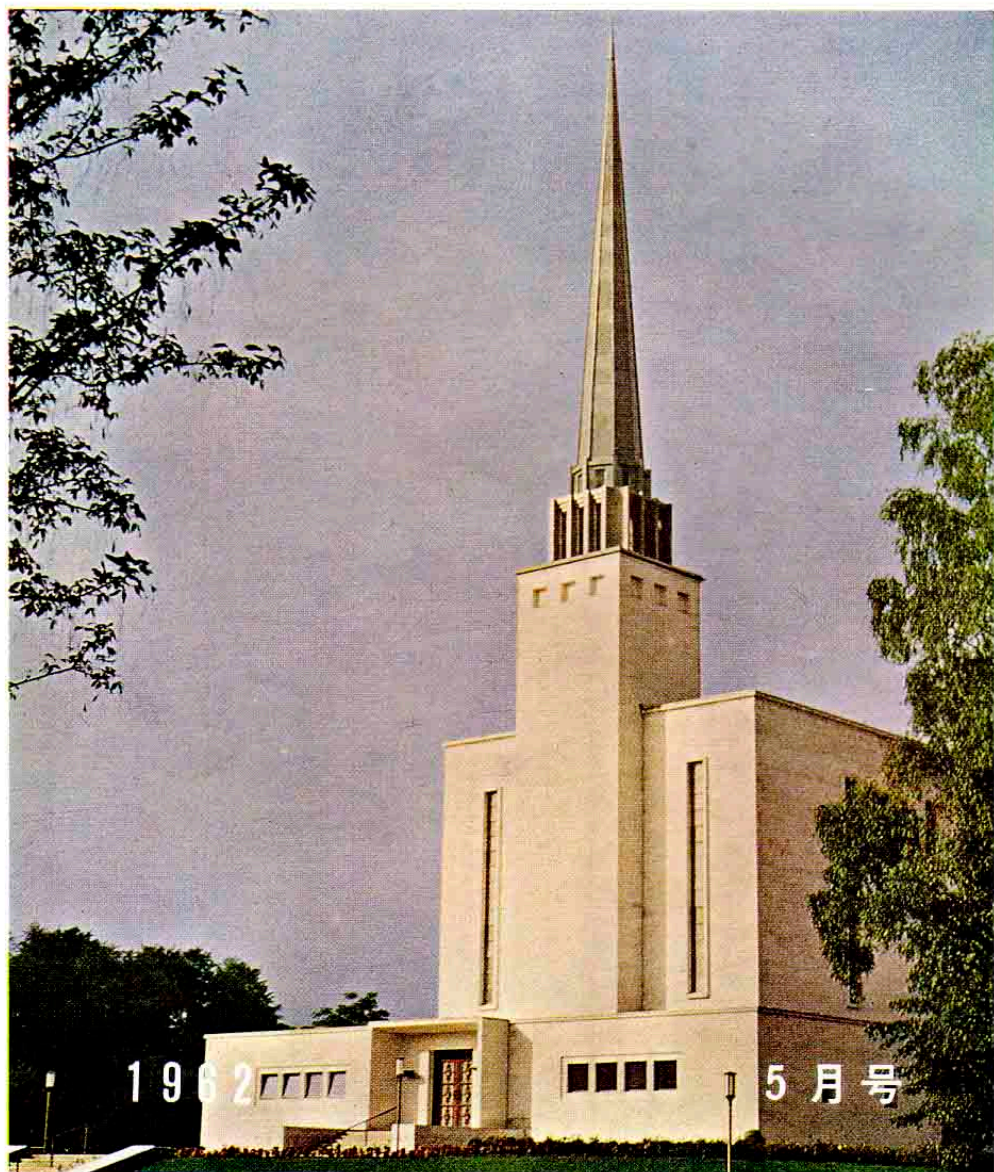


道 徒 の 聖

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可(毎月一回)日発行
第六卷 第五号 一九六二年五月一日発行



末日聖徒イエス・キリスト教会

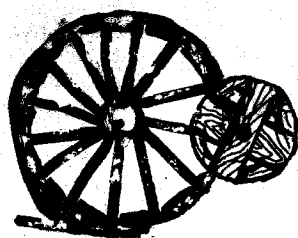


The Seito no Michi

Volume 7, Number 5

Contents for May 1962

A Prophet's Voice: The Priesthood and The Young Men of The Church.	
..... President David O. McKay	259
President's Message	President Paul C. Andrus
.....	263
Your Question: "When did Jesus appear to The Nephites?"	
..... President Joseph Fielding Smith	266
Ensign-Laurel, Course of Study	269
Candles or Sunshine	
These Hands of Mine	
Branch News	277
Fukuoka, Matsumoto, Nagoya, Okamachi, Sendai,	
Tokyo-South, Tokyo-West.	
Report on The East Central District Conference (Kōfu-Matsumoto area)	282
Genealogy: History of individuals (from The Foundation of Genealogy, Vol. 1)	
..... Brother Masao Watabe	283
Church Articles	285
Sunday School Guide for S. S. Children (for June)	
Sunday School Guide (for June)	
MIA Leader	
Relief Society Guide	
Essentials in Church History (29)	President Joseph Fielding Smith
.....	296
Relief Society Lesson (for May)	300
English Conversation Texts	312
Mission Headquarter News	316
Aronic-Priesthood: Branch-Teaching Lesson (for May)	318
Hymns for Exercise	319



「聖徒の道」5月号

目次

予言者のことば…神権とわが教会の青年たち……………大管長 デビド・O・マッケイ…	259
伝道部長メッセージ……………ポール・C・アンドラス…	263
質疑応答…イエスはいつニーファイに現われたもうか ……………ジョセフ・フィールディング・スミス…	266
エンサインローレル教科課程…ろうそくの光か太陽の光か…………… ……………この私の手……………	269 273
支部だより…福岡、松本、名古屋、岡町、仙台、東京南、東京西……………	277
東中央地方部第二地区大会……………児 玉 栄 治…	282
けいず…個人の歴史(系図の基礎第一巻より)……………渡 部 正 雄…	283
子供の日曜学校ガイド……………六月用……………	285
日曜学校ガイド……………六月用……………	286
MIAリーダー……………	290
扶助協会ガイド……………	294
末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹…(29) ……………ジョセフ・フィールディング・スミス…	296
扶助協会レッスン……………	300
EIGO KAIWA TEKISUTO……………	312
伝道本部だより……………	316
アロン神権…ブランチティーチングレッスン……………	318
練習の讃美歌……………	319

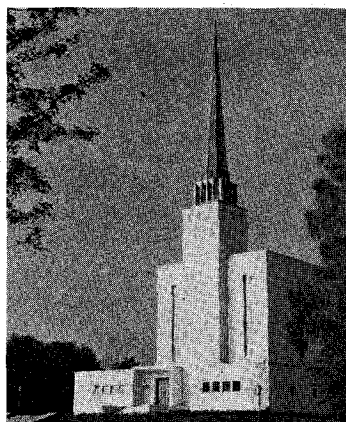
神殿を訪ねて

「ロンドン神殿」 ⑤

一九五八年九月七日献堂

美しいこの神殿はイングランド・リングフ
イルド市近くの三十二エーカーの静かな農
地にある。

すべての神殿の使命に加えて、この神殿は
教会と一万一千の生きた会員のいる国との間
を結ぶ強いきずなの記念碑になっている。こ
の国から五万五千の教会の会員がアメリカの
聖徒たちと共に住むべく西部に移民したので
ある。





予言者のことば

神権とわが教会の青年たち

大管長 デビド・O・マッケイ

私たちはまことの教会の会員として、父なる神と御子とが少年ジョセフ・スミスの祈りにこたえたもうて、あの神聖な森で姿をお現わしになり、父なる神が「こはわが愛子なり、彼に聞け」と仰せになったことに感謝をしている。これはまことに人類史上に起った最大の事件の一つである。

その後、復活者であるバプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリの祈りにこたえて神のみもとからつかわれ、この二人にアロン神権をさずけた。これによってジョセフとオリヴァの二人はたがいにバプテスマをさずける資格と天使の導きとめぐみをうける能力とを得たのである。

このほかペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人の復活者がつかわれ、ジョセフとオリヴァの二人にメルケゼデク神権をさずけた。これによって二人は完全な姿のまことの教会をたてる権能を得、また救い主とその使徒たちが此世に在った当時のままの完全な教会の組織を啓示された。

神権には始めもなく、また終りもない。神権は神とおなじく永遠である。救い主の時代にアロン神権の保持者であったバプテスマのヨハネは、救い主にバプテスマをさずける者となった。このヨハネは救い主が神の御子であることを証し、聖霊が救い主に降りたもう

のを見た。このヨハネこそ、この神権の保有者であつて、かつまたその神権をさずける権利のあることについていささかも疑いをいれる余地のない一人である。そして彼は「この神権時代」に復活者としてジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリのところへ来り、その神権の権能と神の代表者となる権能とを二人にさずけた。バプテスマのヨハネのほかにこの権能をもっている者はなかった。それで彼は天の使者として来り、その神権の権能を得んことを切にねがい、かつまたその権能を得る方法を知りたいとねがっていた二人にそれをさずけたのであつた。それであるから、毎年の五月に私たちの教会は記念のプログラムを催おして、千八百二十九年五月十五日にペンシルベニア州サスケハナ川の岸で起つたアロン神権の回復を忘れないようにしている。

神権をもっているということは、隣り人に奉仕をする、すなわち自己本位をなくし、自己本位にうちかち、自分をなくして他人のためにはたらくということである。神権をもっているということは、天の父なる神の承認したもうたはたらきをすることができるということである。

私たちが祈るときはつねに「私たちが神権の意味を悟るように助けを与えたまえ。そして、この神権時代のアロン神権とメルケゼデク神権に按手聖任されることにともなう数々の責任に堪えてこれを果すことができるようになしたまえ」と祈るべきである。

アロン神権の位に按手聖任された後、執事の職に補せられた者は、とくに任命を受けたのである。その者は自分のようにとくに任命されていない者のするように、のろう言葉を出したり、タバコをすったり、こっそりわるいことをしたり、隣り人をだましたりすることとはできない。彼は自分の仲間の指導者である。彼はほかの者が神を汚すことを言うのを耳にするかもしれないが、彼自身はけつして神を汚す言葉を口に出さない。従つて、彼はあやまちを正す権利をもっている。

私はソルトレーク・タバナクルから半丁ほどききに住んでいる一人の少年を知っているが、彼が遊んでいる少年たちに「ここではのろいの言葉を出してはいけないんだよ」と言うのを聞いたときほど、この少年を愛おしいと思つたことはかつてなかった。この少年は執事にすぎないが、自分の召された職に忠実であつた。それで、みなのはやは少しものろいの言葉を口に出さなかつたのである。

私がアロン神権の保持者であつた当時のことを思い出させたいと、私はある土曜日のこと、一人の執事としてワード邸のある寡婦のために薪を叩き切つていた。私たちは九人が一団となつて短い集りをし、それから斧を手にもつてその寡婦の家に行き、一人一人がその週間使うに充分な薪を叩き切つたのであつた。

教師としては、エリ・トレーシーと行つた最初の「ワードティーチング」の訪問を思い出す。私は一番さきに入つて行つた家を今でもおぼえている。しかし、私の心に最もあざやかに浮んでくる話がある。一軒一軒訪問をつづけて行くときエリは私に話してきかせた。僕は前に一度タバコをすうくせがついたことがある。僕はタバコをやめようと決心したとき、パイプとタバコの二品をとつてこれをよく見えるようにマントルピース(炉だな)の上におき「さて、君らそこにおいたまえ。僕はけつして二度と手を出さんぞ」と言つた。その通り僕はきっぱりやめてしまつた、と。

エリ・トレーシーこそ男らしきに威厳を加え、性格に強さを加えたりつぱな男であつた。私はその話をけつして忘れなかつた。

私は「ティーチング」をしていたが、それはその日にうけた最上の教訓であつた。教えられた者は私であつた。

祭司として、私は聖餐式の執行と始めて祝禱を捧げたときの失敗を思い出す。今では往々祝禱の言葉が印刷してあるが、当時は祝禱の言葉を印刷したもののが前に出してなく、祭

司は祝禱の言葉を暗誦するはずであった。聖餐の卓はちょうど教壇の真下にあつて、監督であつた私の父はいつも「パンと水の祝禱」を捧げる者の真上から見おろす位置に立っていた。

私は祝禱の言葉を暗誦していると思つていたが、さてひざまずいて私の前に居る人々の顔を見るとあわてふためてしまった。私は「また喜びて御子の御名を受け」までは知つていたが、それからさきは頭の中がからっぽになつて「アーメン」と言つてしまった。すると父は「御子を常に忘れず」とつづけた。私は半分立ちかけていたが、またひざまずいて「御子を常に忘れず、アーメン」と言つた。すると父はまた「またその下したまえる誠命を守ることを永遠の父なる神の御前に証明し、かくして御子の「みたま」常に一同と共にましますよう、このパンを祝いきよめたまえ。アーメン」とつづけた。私はやっと父の言葉通りにつづけ終つて「アーメン」と言つた。私は失敗の苦痛をいやというほど味わつたが、途中でやめてしまわなかつたので嬉しいと思つてゐる。

私は以上のことを昔の思い出として話したが、時の移るのは早いものでまたたくうちに少年時代、成年時代、老年時代となつてゆく。すぐこの間のことと思つてゐるがもうずいぶん前のことになつてしまつた。しかし、人生とはこのようなことの集りである。

私は今日アロン神権をもつてゐる方たちが大きな業績を挙げておられるのを見てお祝いの言葉を申しあげる。

若い人々よ、あなたが受けた按手聖任に永遠に忠実であるよう、神があなたたちにめぐみを与えたまわんことを。

伝道部長メッセーじ



ポ ー ル ・ C ・ ア ン ド ラ ス

最近の数週間に、これまでわが伝道部で待ちに待ったひじょうに必要な建築計画にある有望な進展があらわれてきました。十二使徒会々員のゴルドン・B・ヒンクレイ長老の御尽力によって、教会の建築委員会は日本、韓国、沖縄に於けるいくつかの建物の建築に着手するためある処置をとるに至りました。

ヒンクレイ兄弟が教会の建築委員会の委員長であるウエンデル・B・メンデンホール兄弟に東京へ来る手はずを調えられたので、メンデンホール兄弟と、全世界を通じて教会の勤労奉仕宣教師計画（レーバーミッシヨナリープロジェクト）を管理しているジョセフ・ウイルソン兄弟とが日本へ来て二月の二十七日から三月の三日まで東京に居られました。この間、ヒンクレイ兄弟、メンデンホール兄弟、ウイルソン兄弟および私の四人は度々集りを開き、わが伝道部の必要とするところを今一度ふり返って見て、今ひじょうに必要にせまられている集会場の建築に着手する計画をたてました。またその間一日を費やして東京にある教会所有の建築用地を検分しました。

その結果、昨年大管長会によって承認された勤労奉仕宣教師（レーバーミッシヨナリー）を基礎として、建物の建築を直ちに進める

べきであると思ひが一致いたしました。またこの時、最初関東地方（東京およびその附近）に於て建物を建て、次に関西地方（大阪およびその附近）に於て建物を建てることも意見の一致を見ました。

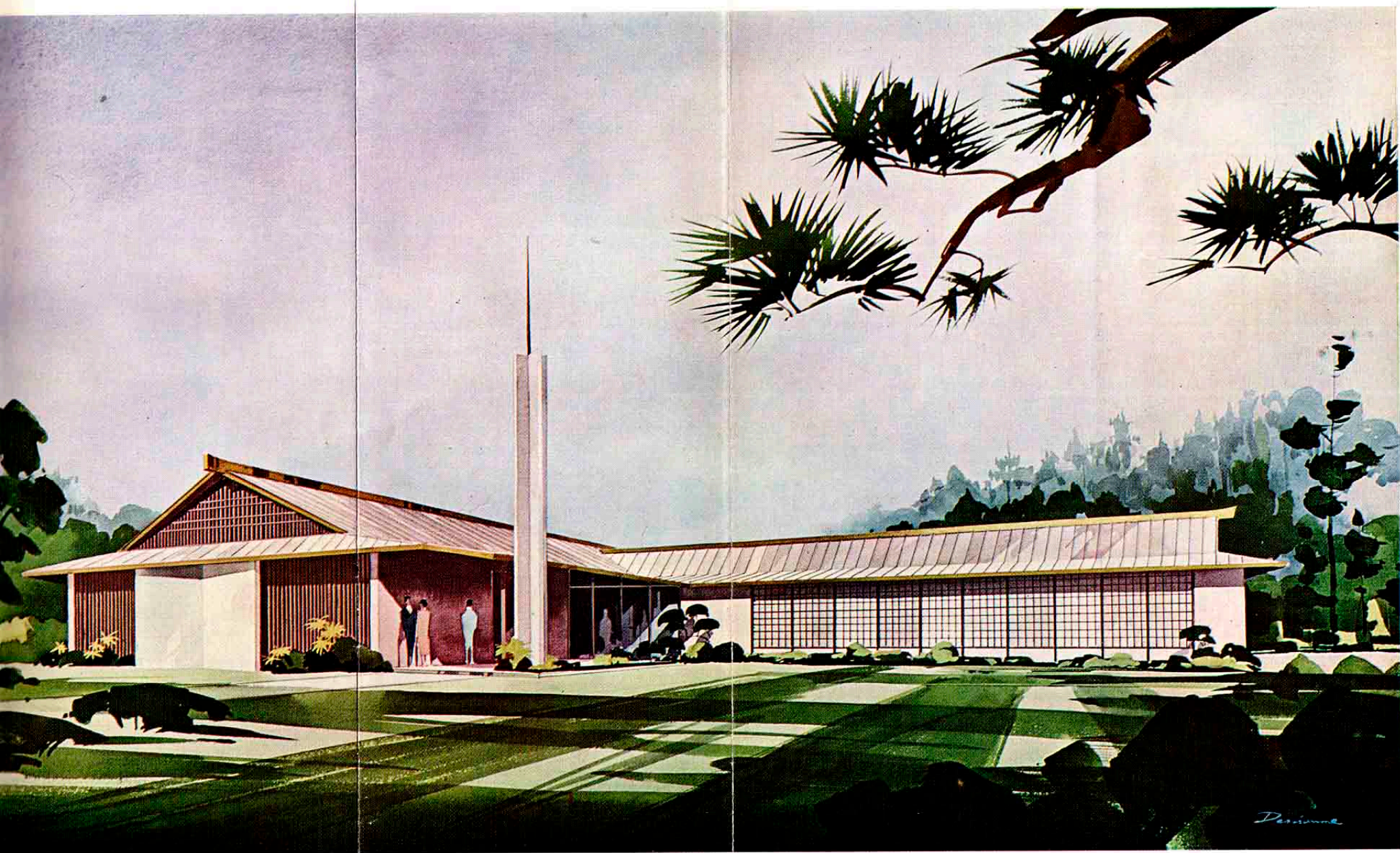
始めこれらの地方から計画を実施して、それから外にある地方に及ぼし、ついにわが伝道部にあるすべての支部に適切な建物が建てられる日があるにちがいありません。

この勤勞奉仕宣教師計画が実施されると、すべての建物は、専任勤勞奉仕宣教師として働らくよう伝道部長から召しを受けた伝道部の会員によつて建てられます。そしてこれら男子の会員は、大管長会から召しを受けた老練有能な建築監督の指揮命令を受けて働らくこととなります。また専任勤勞奉仕宣教師として召しを受けない会員で労働奉仕をしたいと思う人々は、もちろんそうする機会を得ることができると思われます。この専任勤勞奉仕宣教師たちが要する住居と食事と必要な雑費とは、伝道部の会員、とくにそれら宣教師が働らいている所の各支部の会員たちが供給しなければなりません。専任勤勞奉仕宣教師と非専任の勤勞奉仕志願者とが勤勞によつて寄附をする金額は、この計画に要する費用の支部の割当に対して「貸方勘定」となりますから、割当の全部ではなくてもこういう風

にして費用の支部割当を払うことができると大そうよいと思ひます。

さて、建物の建築は實際に本年の六月か七月に始まるはずであります。ハワイ、ホノルル出身のサムエル・カラマ長老が建築監督に任命されましたから、六月には妻子を連れて日本に到着、新しい任務に就くはずであります。カラマ長老は千九百四十九年から千九百五十一年まで日本に於て専任宣教師として活躍しましたから、日本に於ける多くの友人たちは、私と同様、カラマ長老が間もなく再び来日することを聞いて嬉しく思うことを私はよく知っています。太ていの支部に建てられるはずの建物の形式をあらかじめあらわす図面は、すでにハワイの建築家が完成いたしました。最終の平面図は、今日日本に於ける同僚の建築家が製図をしていますから、六月か七月に建築を始めるのに間に合うように出来上るはずであります。

これから建つはずの建物は美しい建物であつて、私たちの必要を適切に満足させるように注意して設計してあります。各教会堂は二百五十人が着席することができるでしょう。また教会堂に隣接して休憩室があり、それに隣接して「カルチュラル・ホール」（文化活動のための広間——もとレクリエーション・ホールと言いました）



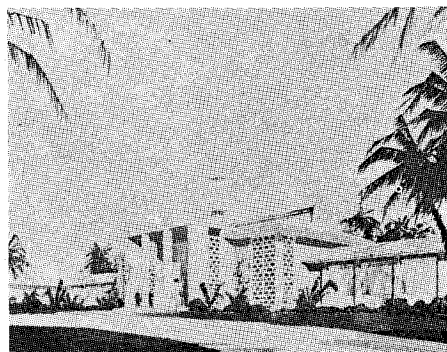
東京北、西、南支部完成図

があります。各休憩室の壁は折りたたみができるようになってい
ますから、この休憩室と「カルチュラル・ホール」とに椅子を入れま
すと、必要な時に五百人から七百人が着席できるようになります。

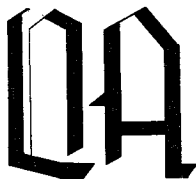
また教会堂の側の方にのびた建物は教室であって、これが六教室あ
りますから、教会堂と休憩室と「カルチュラル・ホール」と「ステ
ージ」の全部を利用すると十から十二の部分を教室に使うことがで
きます。また各教会堂には衣裳室の附属しているバプテスマ・フォ
ント（浸礼池）が設けられます。これまで描写してまいりましたこ
とは、一般に大いの支部に建てられるはずの建物の形式に適用さ
れるでしょう。東京の表参道にある東京中央支部の新しい敷地に建
てられるはずの建物は、地方部センターとして役立つように設計さ
れますから、今申し上げました建物よりは大きなものになるでしょ
う。東京西支部と東京北支部に建つ建物の実際の建築は、本年の六
月か七月に着手されるはすですが、東京中央地方部センター
の仕事は千九百六十三年の春になってから始まるはすであります。
私はあなたたち一人一人と共に、間もなく建築計画が実際に開始
されて、伝道部の各支部に適切な且つ美しい集会場が建つことを知
って心から喜ぶ次第であります。

——世界各地の建築計画——

その 1



ハワイ大学



解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

「イエスはいつニーファイ人に 現われたもうたか」

質問

「数年前に私は、最初の復活の日にアメリカ大陸で起った出来事について話をするように言われました。その話の準備をしているうちに、私はキリストがバウンテフルの地でニーファイ人の群集に現われたもうまでには、十字架におかかりになった時から、ほとんど一年たっていることを見つけました。

「第三十四年一月四日、いまだかつて全地にあったこともないすさまじい嵐が起った（ニーファイ第三書八〇五参照）。

「第三十四年の末に、命を助けられたニーファイの民、および命を助けられた者でもとレーマン人と呼ばれた人々が、大きな恵みを受けてその頭の上に大きな祝福を授けられたことを、私はあなたたちには知らせたい（ニーファイ第三書十〇十八参照）。

「まだ多くの会員はこれらの出来事について思いがいをしております。これは大切なことではないと思われませんが、これについて論じて下さいませんか。

解答

これまで多くの会員に思いがいのあることは事実であるが、モルモン経の記事を注意して読むなら、これらの思いがいが一掃されるにちがいない。性急なしらべ方をする、主が復活をなさってから、命を助けられたニーファイ人とレーマン人のところへ現われたもうまでに約一年のおくれがあるという印象をのこすであらう。しかしながら、もっと注意して読むなら、モルモン経の記事はキリストが十字架におかりになってから、バウンテフルの神殿の近くに集っていた人々に現われたもうまでの時間がきわめて短い時間であったことを示している。主が復活をなさってからアメリカ大陸へ

お現われになるまでに実際一年がたつていたという誤まった結論はこれまで公けにされていて全教会員にひろまっている。それであるから、兄弟姉妹やモルモン經を読む人々に向つて、この話のこまかい点に至るまでよく注意していただきたいと言つてもさしつかえないと思う。

ニーフアイ第三書八〇五を読むと「第三十四年一月四日、いまだかつて全地にあつたこともないすさまじい嵐が起つた」としてある。そしてこれにつづく各節には、この嵐のあつたあとに起つたいろいろの破壊の有様がこまかく誌されている。これらの破壊は明らかにイエスが十字架におかりになつてゐる時に起つた。第九章にはこの破壊の有様と、この嵐の間にイエスの声が聞えて大破壊を起す理由を告げておいでになることがつづいて誌してある。

「さてこれらの亡びたる者よりも義しきが故に命を助けられたるすべての者どもよ。われが汝らを医すを得るために、汝らは今われに立ち歸りて罪を悔いまた心を改めざるか（ニーフアイ第三書九〇十三）。

「見よ、われは神の子イエス・キリストなり。われは天地とその中にある万物を造れり。われは最初より御父に共に在りき。而して今、われは御父に在り、御父はわれにまします。御父はすでにわれによりてその御名の栄えを示したまへり（ニーフアイ第三書九〇十五）。

すべてこれらの事はあの大いなる暗黒が地を覆うていた間にあつたことで、モルモンはつづいて九章、十章を費してすでに起つたおそろしい破壊の説明をしている。そしてモルモンは十章のむすびの言葉として、

「第三十四年の末に、命を助けられたニーフアイの民および命を助けられた者でもとレーマン人と呼ばれた人々が、大きな恵みを受けてその頭の上に大きな祝福を授けられたことを、私はあなたたちに知らせたい。従つてキリストは天に昇りたもうてから、すぐにこれらの人々に確に現われたまい、自分の体をかれらに示して祝福を施したもうた。しかしキリストが教えと導きを与えたもうた記事は後にのせるから、今はこれで私の言葉を終りにする（ニーフアイ第三書十〇十八・十九）。

ここでモルモンは、イエスがアメリカ大陸でニーフアイ人とレーマン人に現われたもうたのは、天にお昇りになつてからすぐであつたと明言している。そして、イエスが天にお昇りになつたのは、復活の日に墓の所でマリヤにお現われになつた後のことで、また同日弟子たちにお現われになる前のことであつた。

モルモンはこの所で記事を中断した理由を述べていない。明らかに、モルモンがこれを誌していたのはニーフアイ国民が生きたためにレーマン人と大戦争をしていた時代のことであつたから、何かとつぜん非常の事態が起きたために一時記録を中断したところかと思われる。しかしながら、次にモルモンはこの物語を中断したところからつづけて、パウンテフルの地にある神殿のまわりには多勢のニーフアイの民が集つていたと誌している。この多勢の民が集つたのは、あのおそろしい暗黒の時が終つてすぐのことであつたのは言うまでもないと思われる。モルモン經には「民が集つて共に怪しみ驚ろき、また共にあの大きな変化を示し合ひ」（ニーフアイ第三書十一〇一）としてある。

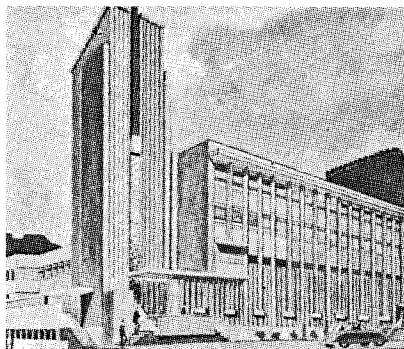
多勢の群集が共に怪しみ驚ろき、また共にあの大きな不思議な変

化を示し合っていたうちに、彼らは或る声を聞いた。

「この声は荒々しい声でもなく、また高い声でもなかったが小さな声でありながらもこれを聞いた者たちの骨の髄までつき通るようであって、かれらは全身ごとくふるえおののいた。この声はまことにかれらの中心にまで浸みわたり、心が燃えるような感じを与えた（ニーファイ第三書十一〇三）。

「群集はその意味が解ってまた天を仰ぐと、天から一人の男の方が降りたもうのが見えた。このお方は白い衣を召して降ってきて、群集の中に立ちたもうた。群集の目はこのお方の上に注がれたが、互いに物を言う勇氣がなかった。みなは自分らに現われたこのお方を天使であると思ったが……（ニーファイ第三書十一〇八）。

ロンドン、ハイドパークの教会堂



イギリス

その 2

世界各地の建築計画

多勢の人々が神殿の所に集って互いにあの大きな変化を示し合っていたことは、これが主の復活後すぐに起った出来事であることを証明している。もしもこの事が一年後に起っていたなら、多勢の人々は一人のこらずこの大変化についてよく知っていたであろうからこの大変化をそんなに恐れてはいなかったであろう。この時はそれがひじょうな驚ろきであり不思議であつたから、すでに起つたことを互いに示し合っていたのである。

さらにまた、さきに忠実であつたニーファイ人とレーマン人に、イエスが現われたもうて、モーセの律法の時代が終りを告げ「完全なる福音の時代」が始まったことを教えるまで、満一年というものをお待たせになるということとは不合理である。



ろうそくの光か

太陽の光か

考え深い人であったなら、成功と幸福とを得るに必要な自分の能力をひじょうに高める知識をわざと身につけないようにすることはないのである。完全に回復されたイエス・

キリストの福音の中から容易に得ることのできる豊かな「生命を与える知識」を利用するためには何をすることができるか。……問題点

「それ故に、汝らはすでに聖書を持てる故わが言葉の全部がそれに含まれたりと思うべきにあらず。またわれがその聖書以外に多くのことを書かしめしことなしと思うべきにあらず。われは東西南北および海の島々にある一切の人々に、われがそれらの人々に語る言葉を書き記せと言う。そは、われはその書き記さるる諸々の書に従い、その中に記さるることによりてあらゆる人をその為したる行いに応じて裁判せんとすればなり。見よ、われユダヤ人に語らばユダヤ人はそれを書き記し、ニーファイ人に語らばニーファイ人はそれを書き記し、われがすでにほかの所へつれ出したるイスラエルの家

に属するほかの支族に語らばかれらはそれを書き記し、また世界各国の民にみな語らばかれらはみなそれを書き記すべし。……ニーファイ第二書二十九〇十一十二

このしげきに富んだ二十世紀に生きている考え深い多くの人々の口を通して一斉に言われることは「現在何をしておいても必要なものは、人間の生活にあらわれるいろいろな事を指導する明瞭な神のこえである」ということばであります。こうしたことばや、これと同様の状態判断を耳にする末日聖徒たちは、神と御子キリストが予言者ジョセフ・スミスに現われたもうた結果世界にもたらされたすばらしい祝福をちよつと落ちついて考える間を与えられています。ひじょうに大切なのは、人々がたびたび求めているその事、すなわちこの末日に於て、人間の生活にあらわれるいろいろな事を指導する神のこえであります。まことの教会の教員は、この「つけ加えられた光」がまさに何を意味するか、それがもつとよく解るようになる必要があります。霊のことに心を向けている人々にとって、神のこえは昔からまことに貴いものであります。神のこえはまことに暗黒の中の光明であり、絶望のさいちゅうの希望でありました。全人類のために聖書が印刷されるようになったすばらしい物語は、神の指導を求めている人類の渴望をしめす代表的なものであります。

主なる神は始めから聖い予言者たちに神の真理を啓示して、導きと祝福を与えるためにこれらの真理を人々の間に知らせよとおいいになりました。これまで、聖典のなかにある教えを解釈するとき、それに対していつも頑迷と迫害の焰がはげしく燃えあがりました。宗教改革の時代から現代に至るまで、神を信する人々の間で聖書は結合する力にもなっており、分裂を来す力にもなっております。なぜこうしたことがあるのでしょうか。神はわなをしかけて人々を混乱させ、人々の忠実さによってその群をお分けになるのでしょうか。主なる神の家は混乱の家でしょうか。以上の答えはもちろん否であります。

主なる神がお与えになった啓示と、予言者ジョセフ・スミスが神の賜によって譚訳した古代の記録とによって、私たちは多くのわかりやすくてもしかも貴い真理が、あやまちと悪いくわだてとによって聖書からとりさられていることを知りました。無数の解釈をする余地があつて、その結果一致を来すよりはむしろ混乱を来すような記録をつくりあげるのがサタンの目的であつたということを私たちは知りました。啓示をうけた神の使徒たちから出たときには明るい光であつたものが、多くの大切な点でかすかな光となつてしまつて、ここかしこにかつてわかりやすい真理があつたが、今や大切なことばと真の原文が失なわれたためにぼんやりとしたわけのわからぬものとなつてゐることを暗示してゐるにすぎません。末日聖徒たちは正しく譚訳されたかぎり聖書は神の言葉であると信じています。聖書を一生けんめい勉強してゐる教会員たちは、教会員以外の人たちよりも、一般に一層高い価値を聖書に認めています。これには一つの理由があり、それを教会員たるものは一人のこらずつ知つてゐなくてはなりません。

私たち末日聖徒は、モルモン経、教義と聖約および高価なる真珠の三部の聖典が手に入りますから、聖書の内容を完全に正しく理解する鍵をもつてゐるのであります。これら三部の聖典を聖書につけ加える重なる目的は、主なる神によると、聖書から失なわれた、また聖書の中にあつても不明瞭な大切な真理をはつきりとさせるためであります。

世界中に、いろいろな教会がわかれてゐるものになつてゐる教義上のちがいをながめさえすれば、どの点を明らかにしなくてはならないかがすぐにわかります。前に挙げた三部の聖典をもつてゐる末日聖徒イエス・キリスト教会が、現在あるところの既成教会からわかれた教会ではないという事実はいよいよ重要なことであります。「回復」の必要と目的とは、主なる神が次のようにきわ立つてはつきりさせておいてになります。「回復」は「改革」ではありません。「回復」は末日に於てこの地上に神の教会を再びあらたに建てるための基礎であります。

私たちは世の中の人々に、モルモン経が聖書に加えた光明をどれほどよく説明ができる力をそなえてゐるでしょうか。私たちが、モルモン経が聖書に加えた光明をよく知つてゐるなら、主イエス・キリストの使命についてもっとはつきりした知識をもつてゐるはずであります。私たちは、何代にもわたつてイエス・キリストの福音が地球上にあることを感謝しなければなりません。「先在」に関する私たちの知識はひじょうにひろがり、死後に於ける人間の霊の状態と復活の状態とは明らかにちがひありません。モルモン経の中に書いてあることによって、バプテスマの様式とバプテスマの意義に関する論争は終りを告げました。人間が、この地球上でそのためしの状態を意義ある存在とするために、地上には大きな反対の力

があることをモルモン経は語っております。モルモン経がこの世にあらわれて、その内容が世の人々に明らかにされたため、聖書にのっている多くのいちじるしい予言は事実となって現われました。モルモン経にある古代の予言者たちがアメリカの地についてすばらしい約束をした時代について光明を授けることは、まことに私たちの心に強い刺激と興味とを与えています。

「教義と聖約」の中には、主なる神が現代の人々にお示しになった数々の啓示がのっております。もしも主なる神が、とくべつな使命と律法と指示とを啓示して、私たちに多くの祝福を与えることが充分大切であるとお考えになったとしたら、私たち教会員たる者はそれらの使命と律法と指示とをさがし出してこれを日常の生活の中にとり入れ、またほかの人たちにもわけ与えるはずではないでしょうか。現在、世の中の人々が神の命令をたずね求めているとき、末日聖徒イエス・キリスト教会は具体的な答えをもっています。すなわち、主の御ことばはこの地球上にわれらと共に在って「完全なる永遠の福音」を明らかにしている、と。私たちの教会がもっている四大標準聖典は、私たちが現在直面している多くの困難に対抗して行くためになくてはならぬものであり、またこの時期にきわめて適したものであります。

末聖聖徒はその教会の大管長会、十二使徒定員会および教会の大祝福師を「予言者、聖見者および啓示を受ける者」と認めかつ支持しております。この手つずきと信仰とを、世界各地にある宗教界の霊の権威者に関して一般に行われていることとくらべて見たとき、そのほんとうの意味がはっきりするのであります。

この地球上に神の「生ける予言者」が存在していることこそ、まことの教会がひじょうな靈感を人に与えている一つの面であって、

そのことばを聞いて従う人々はこれから大きな安心と守りとを得ているのであります。

主なる神は、ひじょうに複雑であり危険であると思われる現代に、神の承認を得た霊の指導者なしに、神の子らを放置してお置きになることはありませんでした。

私たち末日聖徒が導かれて生活しているすばらしい霊の光明について考えるとき、教会の役員から与えられている度々の勧告を見うしなわないようにしたいものです。私たちは毎年二回開かれる教会の総大会に出席するとき、これら教会の指導者たちが活躍している様に接するよい機会を与えられます。

教会の大幹部の人々の大会演説がひじょうに大きな範囲の問題にわたって行われることは、これらの方々が現代に於て真に考えるべき問題についてきわめて注意をしておられる証拠であります。これらの方々の導きと教えとにより、福音と私たちのすべての生活との間にある密接な関係が、話し手にも聞き手にも共に祝福を与えたもう聖霊の御みちびきのもとにはっきりと説き明されております。

現代ほど、一つの民が神の知恵を豊かにさげられていた時代はこれまでにありませんでした。主なる神は「教義と聖約」第百二十一章で「如何なる力かよく諸天の運行を止め得んや。何人かよくかよわき腕をさし伸べて、神の命じたまえる水路を流るるミズーリの流を止め、またこれを逆流せしむることを得んや。もし、よくこれを為し得れば全能の神が末日聖徒の頭上にいと高き所より知識を注ぎたもうを止むることを得ん」(百二十一〇三十三参照)とそのみところをはっきりとさせておいでになります。今こそ「主の計画」の中に於て、すべてのものが明らかにされ、すべての真理が明瞭になり、またすべての原則と儀式とがもとのように本當の秩序に回復

される時であります。今までの各時代にあらわれた数々の予言者は、この「時満ちたる最後の大きな神権時代」が来ることをあらかじめ告げていました。私たち一人一人が答えなくてはならない大事な質問は「私たち自身の生活がどれほどこのすばらしい神の光に照らされているか」ということであります。

現在、末日聖徒であるすべての若い人々が實際生活に直面するとき、彼ら待っている意義深い選択があります。この選択を簡単に述べると、それはこの若い人々がその知識と行動とによって真理をひろめて、他の人々に確かな方向を与えるか、それともこれをしないで、現在いたるところ人々を固くとらえている混乱と恐怖とをますます甚だしくするか、ということであります。もしも真理をひろめて「永遠の生命」に行く道を示すときめるなら、若い人々は「福音の計画」にある「物の具」をもって武装しなくてはなりません。これには、あらゆる機会をとらえて知識の範囲をひろげるために利用しなくてはなりません。また、神の与えたもうた聖典から学んだ知識と、教会の「生ける予言者」の口から与えられる知識とを實際にふみ行う勇氣のある態度が必要であります。

主なる神の与えたもうた赫々たる日の光がいつでも得られるのに、疑いと無知と真理が半分しかない明滅するいんうつな「ろうそくの光」で生活するのはおろかな事であります。私たちは青年のうちに「救いと昇栄」を求める探求を充分に行う決心をしようではありませんか。これこそ万人のための本当の幸福であり、また永遠に続く幸福なのであります。

「教授の手助け」

一、レッスンの目的

私たちはモルモン經、「教義と聖約」、高価なる真珠を旧新約聖

書のほかに持っているので、福音を明瞭に、また確実に知ることができる、ということの説明する。

二、教授の方法（提案）

(イ)レッスンの始めに聖句を読んで、その意味を考察する。

(ロ)聖書がどのようにして一般人に読まれるようになったか、クラス生徒に簡単な話をさせる。これは興味の深い話であり、またそれについてひじょうに多くの人々がほとんど知っていないか、または全然知っていないかがわかる訳でもある。

三、生徒たちの参加に対する提案

(イ)聖書の伝えようとする言葉と聖書の真の精神とを完全正確に保つためには、何世紀もの間にどんな困難に出逢わねばならなかったか。

(ロ)神が、神の予言者を通して真理をお伝えになる道が開いてなければ、神のまことの教会は存在できないというのはなぜか。

(ハ)福音を正しく理解するために、四大標準聖典の一つ一つはどのように役立っているか。

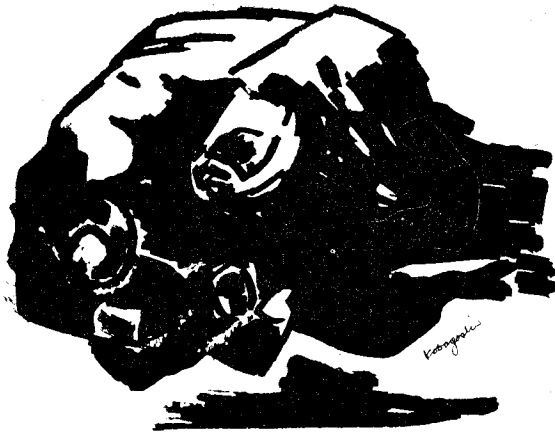
四、生徒たちの応用に対する提案

(イ)「モルモン經も教義と聖約も高価なる真珠もいまだかつて読んだことがない、というだけのこととて、多くの末日聖徒はほかの教会の信者たちと同様に福音の真の性質について暗黒である」という言葉についてどう思うか。

(ロ)人々に、私たちの教会の標準聖典を理解させることを助けるために、クラスの人々はどんな提案をすることができるか。

(ハ)「永遠の生命」とは何であるかを理解して、「永遠の生命」を得る助けとなるためには、聖典の知識が第一に大切なことであるか。理由を附して答えよ。

この私の手



神権の権能と力とは善をするための「生ける力」である。

神権の本当の価値を知らず、神権を用いることをせず、正しくない生活をしている人の生活の中で神権は眠っている。

言行一致は偉大な徳であって、神権を尊び自己の召しを完全に実行している神権者にはこれをもっともよく現われている。……問題点

「大神権、すなわちメルケゼデク神権の権能と權威とは、教会員すべての霊につける祝福の鍵を保つことなり。すなわち、天の王国の奧義を受くる特権を有し、諸々の天は彼らに開かれ、神の「長子」の教会とその総集いと親しき交通を享け、父なる神と新たな誓約の仲保者イエスとの臨在と親しき交通を享けることなり。小神権、すなわちアロン神権の権能と權威とは諸天使の導きと恵みを受くる鍵を保ち、誓約と誠命とに適いて外形的の儀式を執り行い、福音の字義を教え、罪の赦しを受くるための悔改めのバプテスマを施すなり。」「教義と聖約」百七〇十八—二十

それは典型的な末日聖徒のワード部に於ける日曜日の朝のことでありました。そのワード部の会員はそのとき日曜学校へ出るために

集っていました。神権会が終ったので、ワード部の監督は二人の少年の腕をとらえて「君たち、日曜学校の聖餐式で聖餐を準備してくるなら、ありがたがね」と言いました。まもなくこの二人の少年は聖餐式に集った人々を見わたすテーブルの前にして席につき、友だちに挨拶をしていました。日曜学校が始まったとき、二人とも自分の目の前の状態についてとくに何も考えていませんでした。つまり、この二人はそれまで何年も教会の集りに出席して、何度も何度もこの聖餐の卓を前にして席についたことがあったのです。それまで、日曜がくるといつも二人はこの役についていたのであります。

やがて聖餐式の讃美歌がはじまり、二人の少年は指を清めるために手あらい鉢へ手をのばしました。そのうちの一人が真白な手ふき

をとって手の指をふいていると、彼はその手ぶきにちよつとしたよれがついてきたのに気がつきました。これが彼の注意をとらえたので、彼は自分の手の状態について考え始めました。まもなく彼は立ち上って真白なパンの一片一片を裂きはじめていましたが、自分の手の指が聖餐式のパンを用意するために動いているのをじつとみているうちに、しだいに自分の手のことが気になりはじめました。

そのとき、彼はこれまでに考えたことのない重大な考えに打たれて全身のうずく思いをしました。

「この私の手、今私がイエス・キリストのぎせいの象徴である最も聖いパンを裂く神権者の任務を遂行するために使っている私の手は、この神権を受けるに足ると主張することのできる価値がどれほどあるだろうか。」

彼は、自分の手がそれまでにあったあらゆる場所と自分の手がしたあらゆる事を考え始めました。彼はおちついてじつと考えました。このときほど神権者であるという特権、むしろ責任が、大きな力をもって彼にせまってきたことはありませんでした。

この末日聖徒の少年の手は、彼が忠実であるならいつの日か、祝福、按手聖任、とくべ

つの任命、そのほか神の子たちの霊の必要に応じてめぐみを与える目的で、他の神権者の手と共に頭の上に按かれるであります。

また「主なる神の御計画」に従って、彼が神殿で結婚をする時には、祭壇の上で彼の手は愛する女性の手をとることであります。

末日聖徒イエス・キリスト教会に属する青年のほか、このようなすばらしい「行くさき」がまちうけている青年は一人もありません。

まことにこのようなすばらしい祝福を受けようとするならば、どの神権者も神聖なことを軽んずることはできません。

末日聖徒イエス・キリスト教会のもつ最もめずらしい特性の一つは、十二才以上の忠実な男性には誰でも、神聖な儀式をとり行うときに働らくすべての権威と権能と共に神権が授けられる機会があるということであります。なお一層大切なことは、このばく大な数にのぼる神権者の一人一人は、もしも正しい記録が得られるなら、各自の神権の系統を、アロン神権のときにはバプテスマのヨハネまで、メルケゼデク神権のときにはイエス・キリストの使徒である。ペテロ、ヤコブ、ヨハネまでじきにさかのぼって定めることができます。以上は完全に福音の回復

が行われたことを証明する二、三のおどろくべき事実であります。

これまで私たちの教会の敵は、私たちの教会がまちがいと詐欺の上に築かれたものであるとくり返しくり返し批難しております。この批難をうちやぶる最もよいものは、私たちの教会では十二才以上の男性に、自ら教会の基礎である能力、すなわち神権を経験する機会が与えられているという事実であります。たしかに、もしも教会が「その弱さを発見される」おそれを抱いているならば、その神権の儀式を「詐欺師」たちの小範圍にとどめて注意深く防ぎ守るであります。神権定員会の中にある活動を通じて、最高度の霊に関する働らきや実際的の働らきを見出している何十万に上る神権者の証こそ、神権が真実神から授けられたという何よりの証拠であります。

私たちは、女性に神権をもつことを許されていないけれども、神権の祝福を男性と共に分け持つということを教会で教わっております。こうした関係から生ずる深い霊の満足にもまして、啓示による最も貴い原則に従って生活している少年と大人の人人々のもっている同族としての、友人としての、また兄弟同志

としての関係には深い慰めと安心とがありま
す。

主なる神が、少女と成年の女性に、教会の
兄弟たちがその聖い召しを正しく行うときこ
れを支持する大きな責任を与えていらっしや
るのは当を得ていることであります。私たち
が交際をするときには、貴い神権の権能の働
きによって「天にも地にも」きづなが固く
結ばれることを弱めるよりはむしろ強めるよ
うに考えてすべてが行なわれなくてはなりま
せん。

教会員の中には、神権は福音の正式の儀式
が行なわれるときのものだけであるというま
ちがった考えをもっている人がたくさんおり
ます。神権をこのように考えるなら、神権が
私たちの日常生活に善い影響を与える大き
な力をもっていることを否定することになり
ます。年若い執事、教師、祭司の人々は、も
しも神権にかかわる神聖な誓約を尊ぶなら、
善を行い悪に抵抗するとくべつな力を身につ
けております。これらの人々は、団体として
働らくときはもちろんのこと、個人としての
人々の欠乏しているものを施すとき、常に祝
福の源となることができます。これと同じこ

とはもっと広い範囲について長老、七十人、
大祭司の人々に言うことができます。それは
「多く与えられるものには、多くのことが期
待される」という原則が働いているからで
す。

アメリカの青年たちには今、またはいつか
軍隊に入って家庭から離れ、平常の環境から
離れて、遠い前線へつれて行かれる者がた
くさんおります。そこには教会の支部との接触
がごくわずかしかないか、またはあってもご
く稀れであるかも知れません。このような事
情の下にあつて、どこへ行こうと神権が必
ず共にあるということを知っているなら、そ
れは青年たち自身にとって大きな力の源であ
るのみならず、また故国にある家族たちにと
つても大きな力の源であります。神権の中
に具体的に言つてあるいろいろな原則に従うと
き、「義の力」は流れ出て神権者を支え導び
くにちがいません。

最近アメリカ海将の一人は、軍隊に服役中
に逢つた末日聖徒の水兵たちについて次のよ
うに言いました。「私があなたの教会出のモ
ルモン青年たちについて好きなのは、彼らの
各々が『一人立ちの教会』であることだ。彼
らは自分のまわりの者はもちろん、自分たち

をどうしたらよいかを知っている。彼らは祈
りをし、説教をし、聖歌隊を指揮し、通常組
織をつくることが上手である。私が海軍に居
たうちに出席した最上の礼拝のいくつかは、
あなたの教会のモルモン青年がとっさの予告
の下に司会した礼拝であつた。私はひじょう
に多くの青年が身につけているこのような偉
大な能力の秘密が知りたいものだ」と。

この海将は、神権の職を行うために、また
教会で行われるいろいろな事に活潑に参加す
るために、私たちの教会では若い人々にそれ
ぞれ機会を与えています、これがあなたのお
賞めになつた彼らの立派な働らきの秘密です
という返事を得ました。

神権の原則を知つてその通りの生活をして
いる人々には、もっとためになることがつ
いています。現在の若い人々には、長い将
来を見通して考えた上に計画を立てるという
ことを全くすててしまふ強い傾向がありま
す。非常事態、戦争、不景気および常時の緊
張が、そのあとに「どうでもなれ」というか
たわの哲学をのこしました。私たちはみな、
人間が良く工夫した計画で旨く行っていない
のがたくさんある、従つて神の計画もまた旨
く行っていないのだというまちがった考えに

おち入っている人々のあることを知っています。事実はその通りでありません。神の目的と計画とは、人間の造り出す不安、動揺によって動かされることはありません。神権者の目ざす道は「永遠の生命」に至る道であり、神権者の働らきは「先見と結果」とを現世にだけかぎるものではありません。「先見と結果」とを現世にだけかぎるのは常人のするところの行いであります。若い人々が「食って飲んで楽しめ、人間はいつ死ぬかわからないからである」という時代の圧力と悪い仲間の圧迫とが推しすすめる行為の法則に賛成して、福音の律法をすててかえりみないのは、悲しい誤まりであります。このような生き方の果てが悲惨であることは、人生の荒波に難破した無数の人々の歴史がすべて証明しています。これに反して、神の啓示に従って人生の航路を定めた人々は、永遠の価値ある目標に達することによって必ず幸福と満足とを見出すにちがいありません。

私たちは、聖餐の卓の前にして立っているあの少年のようにちよつと落ちついて、自分がどのような手をもっているか反省をしてみるのがよいでしょう。その手は自分自身と一般人類に危害を与える手ですか、またはその

はたらきによって人々の重荷がとりのぞかれる手ですか。もしもよい方向にむけるなら、その手は聖い神権の権能を保存して、イエス・キリストの福音に関して教えと導きを施す働らきをするために、これを子々孫々に伝えることができるのであります。

「教授の手助け」

一、レッスンの目的

教会員である若い人々をして、神の子らが「日の栄の最高に昇る」ことができるように自分を神の御手にある一層価値ある媒ににするという考えに専心させるため、彼らの生活の中にあらわれる神権の意義を説明すること。

二、教授の方法（提案）

(イ) レッソンの始めに聖句を読んで考察せよ。

(ロ) レッソンの始めに当って、このレッスンの中にある少年の話をもう一度話しか読むかする。クラスの生徒たちが、今までにこの少年と同じ意味で自分の手を考えたことがあるか、たずねる。

(ハ) 私たちの教会で考えられている神権と、ほかの教会で考えられている神権とはどこが違うか。

三、生徒たちの参加に対する提案

(イ) 神権の権能によってどのような事がこれまでに行われているか。また現在行うことができるか。

(ロ) 神権と同じ偉大な能力がほかにもあるか
(ハ) 詐欺にもとずいて建てた教会は価値ある男子の会員一人一人を招いて神権をもたせ、かつ神権の権能を行使させることができるであろうか。理由を附して答えよ。

四、生徒たちの応用に対する提案

(イ) 立派な資格のある神権者が、同じく立派な資格のある女性の協力なしに、神権にもとずくあらゆる祝福を実際に受けることができるか。

(ロ) 教会の姉妹たちが、兄弟たちのように正式に神権をもっていないわけは何か。

(ハ) 「どうでもなれ」という不具の哲学をしばしばとにのこす非常の事態、戦争、不景気および不断の緊張などがあるときに、神権を立派に使うとどのように役立つか。

四、軍隊に入ろうとしている青年、もしくは学校へ入って故郷を離れようとしている青年にとって、神権はどのような役に立つか。

五、立派な資格のある神権者は「日の栄の最高に昇る」ことに關するすべての祝福を待ちのぞむことができるか。理由を答えよ。

支部だより

福岡支部

福岡支部の桜の花も満開となり、楽しい春がやって来ました。皆様お先気ですか、三月の支部活動をお知らせします。

(三月のバプテスマ)

上園寿美子、中森久明、矢野綾子、柴田朱実、重岡あけみ、重岡エイ子、重岡利夫、花村弘子、山上美代、永田義彰、野間竜一、岩本章、比嘉修、坂井和治、手塚祇治、小野田清一、岡兄弟のお父さんと妹二人がバプテスマを受け彼の家族はついにモルモン一家となりました。

(宣教師の転入・転出)

転入―仙台支部よりウォーテン長老

松本支部よりサドラ長老

広島支部よりギン長老

名古屋支部よりカネコア長老

名古屋支部よりマカヒ長老

転出―三の宮支部へランプ長老

名古屋支部へオウムキニ長老

三月二十二日ランプ長老は三の宮支部へ、

十九日オウムキニ長老は名古屋支部へ転勤の爲十八日の日曜日聖餐式の後、二人の長老の送別会を開きました。送別の言葉として、竹内兄弟曰く、オウムキニ長老が福岡支部からいなくなると支部の女性たちは皆んな泣くでしょう……長老はMIAのウクレレ・クラスにおいて、大変活躍して下さったのでみんなから親しまれていました。私たちは長老から習ったハワイの歌や長老の好きな歌(別れの磯千鳥、朝はどこから来るかしら)を姉妹のウクレレ伴奏に合わせて歌い、長い間福岡支部で伝道して下さり多くの会員を育てて下さったことに感謝の意を表しました。ランプ長老はこの日六人の求道者にバプテスマをほどこし大変意義深い安息日となった。今後の長老たちの活躍を期待しよう。

(三月四日)子供日曜学校役員改選、桜木陽子姉妹解任、後任として山下順子姉妹、同先生山下賀子姉妹

(三月十二日)巡回宣教師として来福中だった佐々木長老はハワイへ帰られる為東京へ向った。

(三月十六日)ミルス長老も長い伝道生活を終えハワイへ帰られる為東京へ向った。

(三月二十一日)祭日MIAの代りに香推花園ピクニックがありました。

(三月三十一日)板付ベースの兵隊さんを招いて食べよう会が開かれた。支部の兄弟姉妹たちの日本舞踊を披露し、ベースの人たちとコーラスの交換をして楽しい一時をすごしました。

松本支部

春の訪れと共に、松本支部は種々と新しくなりましたので、皆さんにお知らせします。しかし残念なことは、支部所有の土地建物がなく借家住居で集会をやらねばならないことです。

二月一日から支部の住所、即ち宣教師の住居は松本市同心町六一番地です。庭のある大きな家です。新しい家に入つて一ヶ月半、当支部初まって以来、民族ならぬ宣教師の大移動が起りました。三月十五日に三人の宣教師が転任されました。

ウィルソン長老 名古屋支部へ
サドラー長老 福岡支部へ
ムーン長老 金沢支部へ
ヘンダーソン長老カリフォルニアロサ
ンゼルス(十六日)

ハヤシ長老岡山支部(十七日)

と着任されました。突然の発表であつたので十四日MIAで送別会を開いた時に初めて知つた人が多かつた程です。宣教師が新しくなると直ちに支部の組織役員が大巾に変更しました。毎年二、三月頃になると、支部にこの問題が提起されます。松本支部は東京の支部の会員養成所か、製造所であろう。春がやつて来ると東京へ行つてしまふ。今年も、早三人の姉妹が移つてしまつた。東京にあつて、活潑に働いているようすを思うと、せっかく松本支部で育てあげたのに、残念で仕方がない。

一月十五日遠藤安子(旧姓川上)姉妹が東京北支部へ、

一月三十日吉田道乃姉妹が南支部へ、更に三月十五日宮城光子姉妹が中央支部に行かれて、この穴埋めに「友だちを連れて来て、会員となし、責任を与える」事に頭を痛めてし

まいます。しかし、新しい組織のもとに、新宣教師を授けて「友だちを紹介しよう」の言葉を達成する為に頑張っています。新役員指導者は、三月十八日聖餐式後、賛成の支持を得ましたので、当日の指導者会から動き出しました。それらの名前を記します。○印継続者

大人日曜学校
会長 中川 鮮 ○B教師 上条和子

第一副会長 上条千国 ○C教師 深沢相子
○第二副会長深沢弘信 ○音楽指揮深沢相子
書記 猪又茂子
子供日曜学校

○責任者 藤井艶子 教師 野村秀代
○副責任者青木サダ ○教師 鈴木成子
書記 丸山陽子

MIA
○YM会長 児玉栄治 ○教師(Mメン
グリーナー)青木サダ YW(ク)志村矩子
教師(エンサイン・ローレル)百瀬久子
書記 百瀬城子 音楽指導 橋本志保利

○ダンス指導 児玉栄治
扶助協会
○会長 土屋けさ子 ○教師(神学)百瀬梅
代 ○第一副会長 百瀬梅代 ○教師

(文学)青木サダ ○第二副会長遠山ちとせ
○教師(社会科学)遠山ちとせ ○書記 深
沢相子 ○音楽指揮 深沢相子
バプテスマと神権授受

二月十八日(日)丸山陽子
教師 中川 鮮
執事 上条千国

神権者がふえて支部が強くなるでしょう。
三月二十一日には春分の日を利用して、M
IA主催による「すぎ焼きパーティー」を開
きました。扶助協会の料理により、おいしく
スキ焼きを食べた後、ゲームをして楽しく過
しました。また建築資金をも獲得することが
できました。

三月二十五日(日)には渡部正雄兄弟が訪
問され、夜特別な系図会を開き、日本にある
キリストの墓について等、系図の話を沢山聞
きました。これによって支部の系図を探索す
る人がふえることと思います。

名 古 屋 支 部

○宣教師の移動は次の通り
転入、松本支部より、カーチスウィルソン
長老、東京西支部よりテルマリンジイ姉妹、
京都支部より、ボビーワーカー長老、福岡支

部よりヘンリー・オフムキニ長老、仙台支部より、トーマス・キヨシ・タマサカ長老

○転出、福岡支部へカーチス・カネコア長老及びノナイナ・マカヒ長老、東京北支部へ、カロリン・スー・ウイルバーグ姉妹、新潟支ボビー・ワーカー長老

○三月のパプテスマ

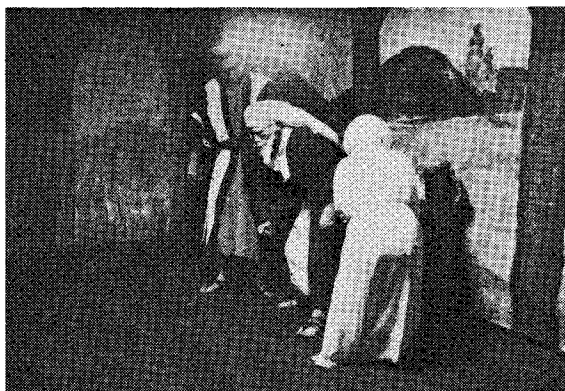
吉野嘉江（犬山にて）

○三月二十四日鈴木正三西地方部長は財産調査六月二日・三日に開かれる西中央地方大会及び伝道方針の指示のため名古屋支部を訪問され当夜開かれた親睦会にも出席され、ゲームに宣教師の合唱と共に楽しく過し翌日二十五日離名された。

○MIA演劇祭

MIA演劇祭の夕は三月二十二日MIA演劇担当者土田準子姉妹司会の下に開かれ、演劇にちなんだゲームのうち寸劇「月形半平太」が登場爆笑爆笑のうちに楽しく終り、朝な夕なに伝道に励む八人の宣教師オフムキニ長老ワーカー長老のダタに合わせてよくハーマニーしたコーラス、常に神様の御心を行なっている者は、何をやってもすぐ一つになる事ができるのを強く感じた。

八時からいよいよ土田準子姉妹脚色演出の



モルモン経モーサヤ書二六・二七章抜粋の「アルマ」が上演された。

「主に対し常に忠誠を尽していた父アルマに背き乱行を続けていた息子アルマが神への冒瀆によって啞になつて手足の不自由を訴え会員たちの心からの祈りと主の奇しき御業によつて悔改めることができモーサヤの息子たちと共にイエス・キリストの証詞と福音を伝え乍ら旅をつづけていった」。

息子アルマにライトをしばって二十五分の短時間ではあったがこの劇に出演した一人一人の兄弟姉妹の熱演によつて観ている者の心に霊的なものを感じしみと味わうことができた。

脚色演出 土田準子姉妹

演技指導 鈴木千鶴姉妹

背景画 土田嘉子姉妹

加藤華代子姉妹

稲垣恭子姉妹

キャスト

アルマ 安藤修兄弟

アルマの父 古芝健三兄弟

町の男 柳田征史兄弟

町の女 伊藤智恵子姉妹

モーサヤの息子 柳田盛定兄弟

岡町支部

千代彰子

○三月のパプテスマ 末吉実次、佐藤和子、

○神権昇進者

執事 原裕二郎

支部長会新役員

支部長 阪本弘

第一副支部長 中川宗幸

第二副支部長 河村雄弘

日曜学校新役員

会長 中本満

第一副会長 阿倍初天

第二副会長 刃弥雅一

書記 桑田忍

教師 北野千穂子、村川香代、上野山真杉

指揮者 川村滋子

伴奏者 秋本彬江

○三月二十日、MIA主催支部予算調達のためのフォークダンス・パーティーが開かれ、約八十人の参加者があった。

エリノア城柿妹は広島支部へ転任され、後人にアリーン・アーン柿妹が横浜から来られた。

仙 台 支 部

三月十日十一日東北の地山形に於て第三地区大会がアンドラス伝道部長、今井地方部長を迎え、教義と聖約十八章十三節～十六節をテーマにして開かれました。

兄弟柿妹たちのすばらしい話、コーラス、伝道部長、地方部長のお話、会員たちの強い証詞などほんとうに御霊に満されたすばらしい大会でした。この大会で私たち仙台支部にとって喜ばしきことが発表されました。それ

は新潟支部と共に日本人の支部長が任命されたことです。約一年ほど前までは、日本人の支部長がおりましたが東京に移住されたために現在まで宣教師の支部長でした。宣教師の支部長もよく働いてくださいましたが、支部のことと、伝道のこととかけもちでは仲々大変でした。日本人の支部長会がほしいとは私たちの望んでいたこともありましたが、今度支部長会の方々が次のように決定しました。

支部長 紙谷富保
第一副支部長 塩 隆義

書記 天野 昭

○今月のバプテスマ

佐藤順子、大谷威光、小林章矩

○三月二日支部予算獲得のため「ひな祭ダンスパーティー」を仙台駅前日乃出会館七階ホールに於て開きました。三百人ほどの愛好者が集いたのしいふんいきの下に一刻を過しました。利益は十二月の時と大体同じ位です。

東 京 南 支 部

各支部の皆さん、お元気ですか。

今回の支部だよりは、支部予算獲得のために努力しておられる南支部のバンドについてお話ししましょう。

白い砂、青い海、椰子の木蔭より吹いて来る甘い風に乗りに、どこからか聞えて来るハワイアン調の調べ。こんなことを、夢みながらハワイ出身宣教師の歌声を聞いたのも、私たちが、ハワイアンバンド結成へ急いだ一つの動機でした。折りから、当支部で伝道中のナルアイ長老を中心に、同好者が集ったMIAでダンス、スピーチ、コーラス、ドラマ等と同じく、定期活動を認めて頂き、ナルアイ長老から、ハワイの浜辺で『波乗りを楽しむ人々』にちなんで、『サーフ、ライダーズ』

“Surf Riders”という、バンドネームを頂きました。その後MIAを通じて、同好者も増し、ダンスパーティー、バザー、MIA、クリスマス等の諸活動で皆さまの、お相手がつとまるように、成長して参りましたことは大変うれしく思っております。演奏する楽しさの一つは、みんなの呼吸が、ピッタリと合った時で、この喜びは、演奏する者だけが知る特権であると思います。まだまだ未熟者で音楽的見地からは眺められない状態ですが、ハワイアンに限らず演奏を通じて人生を豊かに送るべく精進したいと思っております。今後とも、皆さまがたの御指導御引立ての程、よろしく願ひいたします。

最後に、楽団結成に、御尽力くださいましたナルアイ長老、片岡雅夫兄弟に感謝いたします。

サーフ・ランダーズメンバー

スチールギター

坂井圭

エレキギター

遠藤明

ウクレレと唄

坂本欽史

ウクレレとスチーリギター

清水敏宏

ベース

中村善彦

ベースとラテン楽器

中東幹夫

サイドギター

浅野時夫

サイドギター

徳田茂宗

三月にバプテスマを受けられた方は、次の方たちです。

内田豊子、森尾勝子、鈴木美賀子、井上ルミ子、宮島成一郎、上村義弘、岡田多美子。

東京西支部

○演劇祭

八日、MIAで演劇祭の夜を催した。だが地方部大会が二日後にせまっていたため演劇祭を寸劇祭に改めた。この日の出演者と出し物は、島田邦男、石川善次郎兄弟組の「乞食と貴婦人」富岡康、加納芳一兄弟組の「泥棒

と仁王」川野正彦、米村武敏、菅沢勲兄弟と福島幸代姉妹組の「先輩と後輩」「発明」等が演ぜられホール一杯につめかけた人々は、しばし笑いの一時を過した。この日の圧巻はなんとと言ってもタヌキが人間の女性に化けたらこんな姿になるだろうと思われる島田兄弟の女形のようにであった。

しかし、出演者の一部にあまりにも芸術の自由といった観点からのみ題材を取ったため後で第二副支部長松島烈偉兄弟から「教会で演ぜられる劇としてふさわしくない。また求道者へ誤解をまねく」との忠言があった。出演者一同、芸術と宗教の板ばさみにあい、そのむずかしさを感じた。

○子供日曜学校始業式

年々からの計画であった子供の日曜学校は鈴木百合子姉妹、石川善次郎兄弟の指導のもとに十六日によりやく開校のはこびとなった。

責任者 向井良子姉妹

副責任者 鈴木美知子姉妹

書記 向井幸子姉妹

教師 三才：一年生 鈴木美知子姉妹
二年：四年生 向井良子姉妹

大益美千代姉妹

五年：六年生 山田品代姉妹

○PRコミッティ誕生

六二年は、モルモン教会の大発展の年です。現代は、PRの時代です。私たちの教会であるモルモンを一人でも多くの人は知ってもらうため、又不活発会員を教会は導くためPR委員会をつくりました。

PR委員会役員

会長 藤本彰兄弟

委員 大村揺子姉妹、福島幸代姉妹、和田

富雄兄弟、三原一彦兄弟

○HOB Oの会

宣教師主催のHOB O（乞食）の会を開いた。この会は、新会員獲得と会員の親睦とをかねたもので、この日は、小雨はもかわらぬ五十名近くの人々が集まり、宣教師の考えだした迷プラン、渋谷食堂のワリバシ取り競争。アルト・ハイデルベルグ店のマッチ取り競争などは打興じた後で、各人が持参した食品（？）類でつくったスープをのんで散会した。

○今月のバプテスマ

少泉正一、橋本政枝、宮崎志津恵、門田典子。

東中央地方部第二地区大会



児玉榮治

三月十一日甲府に於いて、甲府、松本の両支部が集って地区大会を催しました。暖かな日和に恵まれて、意義ある大会を終りました。MIAは第一副地方部長渡部正雄兄弟の挨拶があり、甲府、松本と夫々練習に励み、発表に備えたコーラスを精一杯唱い合いました。雨宮たん姉妹の故郷を偲んでの「秋田おぼこ」で日本的な雰囲気味わうことができました。就中プログラムの最頂高点は、松本支部の橋本志保利姉妹の独唱だったろう。オルガンを奏しながら唱い始めると、場内一斉にステージに耳が向けられ「美声だ」とささやきあっていた。二曲目はハビカン長老の伴奏により唱われたが、よくもあんな声が出るものだとか驚くばかりで歌が終わっても感心するばかりだった。「甲府音頭」の民謡を皆で踊り、お土産として踊り方を教わった時には、兄弟姉妹の親しみを感ずることができ、最後にフォークダンスを踊った時には、甲府、松本入り乱れて、誰がどちらかを忘れる程でした。時間の経過は早く感じられ、二時間はまたたくまに過ぎ去り、MIAは楽しいプログラムのうちに終わりました。当夜は、甲府支部の方々の好意で夫々別れて会員たちの家に泊りました。日曜日は、神権会と扶助協会に別

れて集りましたが、昨年の大会時より神権者が多数出席されており、合せて渡部兄弟の神権についてのお話は大変意義がありました。

一般大会は八代一兄弟の司会により行われ松本支部の中川鮮兄弟の科学と宗教についての巧みに話題を盛り込んで話され、また羽根三吾兄弟が結婚について、友だちを教会につれて来て会員となして、結婚をすれば良いと云われ、若い会員たちは、うなずいて？よしやってみようという心に命じていました。終って甲府、松本共に記念の写真を撮り、引き続き証詞会に移り、甲府支部の大神権者、野々垣祐知兄弟の司会により、甲府、松本共に説教台の前に立って、夫々強い証詞を述べた。甲府の山田兄弟の証詞は会衆を微笑させるものでありました。途中松本支部のコーラスにより証詞会の気分を盛り上げて、多くの人に証詞をしようという気持を増して、予定の時間を過ぎてようやく終りを告げました。

二日間の意義ある地区大会により、予言者の言葉「友達を紹介しましょう」「全ての会員は宣教師です。」を新にして、さあ主の業を助ける為に働こうと意を決しました。

けいず

個人の歴史（系図の基礎第一巻より）

渡部正雄

今までこの地上に生存した人であなたにとって最も大切な人はあなた自身であります。

あなたの生涯はあなた自身がつくりあげるものであります。その生涯はあなたと交わる人々によっても感覚されますが、それを最もよく感じ知っているのはあなた自身であります。あなたの思想と行動が永遠へのあなたの将来を決定するのであります。あなたの働らきはあなたの責任である以上、他の何人によっても代ってなされることはないものであります。そしてあなたの今日この世に於ける存在があなたの祖先に依存していると同様にあなたの子孫の生存はあなたに依存しているのであります。過去と将来が見えざる輪によってあなたに結びつけられております。系図の仕事に於て、この輪は他の如何なる人類の活動

分野に於けるよりも判然としております。この輪は先祖及び子孫の血統としてはつきりと見られるのであります。すべての人が過去に連結しております。歴史はあなたのような人々の生活と経験の上に築かれていたのであります。将来はあなたによりあなたの行動、またあなたの子孫によって形成されるのです。あなたが昨日何をなしたか、今日何をするか、その上に明日がつくられて行くのです。

すべての人がその直接の家族と親密に結びついているのであります。この相続関係はエライジヤの霊により遠い先祖とも、また永遠に続く子孫にもつながっているものであります。

個人の生活の中にはたとえ人類社会に大きな影響を及ぼさなくても、その人個人にとつ

て、またその周囲の人々に対しある程度の感化を及ぼす大きないくつかの出来事があるものであります。

大いなる人の生涯は 我々に

我々の生涯をも かくの如く

偉大ならしめて 後世に

その足跡を遺し得ることを

自覚せしめる

ロングフェロー

個人の記録はその人の生涯の大意であります。左側に左記必要事項を右側に重要事項を記入します。生涯の詳細な記事は記念の書に記入します。

姓名、血統、出生、祝福、バプテスマ、按手礼、聖任（神権）結婚、神殿の儀式、その他最高の栄に進む道標はその生涯に於ける大切な出来事であって、この世の進歩の指標として記録されねばならないのであります。

一、出生月日、出生地、家柄

われらの誕生はただ眠りと前世の忘却に過ぎず

われらと共に昇りし魂、生命の星は
かつて何処にか沈みて 遙かより来れり
過ぎ去りし昔を忘れしにはあらず
また赤裸にて来たりしにもあらず

栄光の雲をひきつつわれらの古里なる神の許より来りぬ

ウィリアム・ワーズワース

我らの先に住んだ幾千万の人々が
闇の扉の内に去って行ったが

やがて我らも旅せねばならない

その道に就て 誰一人として

告げに返って来ないのは

どうしたわけであろうか

オマー・カヤム

出生の意義は、この人生学校に於て最高の栄に進む準備をすることであります。このような重要な出生は記録されるべきであります。

二、幼児祝福

末日聖徒の父親たる特権はその児に名づけの祝福を与えることであります。このような大切な人生の段階は記録されるべきであります。

三、バプテスマと按手礼

このような福音の儀式は神の王国への入門式であります。悔改め、水による全身浸礼、聖霊をうける按手礼は天父の御許に至るための本質的な儀式であり、より高度な儀式への

第一段階であります。

四、祝福師の祝福

バプテスマと按手礼の次に記す項目は特に定められたわけではないが、普通に祝福師の祝福であります。教会のすべてのステーク部には祝福師が任命されておりますが、この祝福師は資格があると証明された会員の頭上に、この祝福を与えます。この祝福は受ける人の血統をも明らかにし、また彼が福音の誠命と律法に忠実であるならば授けられるであろう報酬を列挙して生涯の導きと慰めになります。このような重要な事項は勿論記録されねばなりません。

五、神権の聖任

執事から大祭司への六つの段階は霊的成長を示す道標であります。それはお召しを受けて責任を遂行して行ったことを表はしております。この神権の系統を救主にまで遡ることができます。大神権への昇進は劃期的な段階でありまして、生涯のすべての儀式を受けられる神殿の扉を開くのであります。

六、神殿の儀式

永遠の生命への道を昇るに更に本質的なものに、主の名に於て建てられた神殿内で執行される聖なるエンダウメントがあります。こ

の儀式はもし誓約の子として生れていない場合に両親に結び固められる儀式への道を開きます。結び固めの儀式は、この儀式の準備段階として受けたバプテスマ、按手礼、神権聖任、エンダウメントのすべてを完成するものであります。これらの記録は完成への道の生涯の進歩過程を示すものであります。

七、結婚

すべての末日聖徒の目標は正しいところで正しい権能者によつて正しい人と正しい結婚をすることであります。この儀式は最高の日の栄への門を開くものであります。

この他特別事項、例へば伝道に出たとか、その他教会の召しを受けた事項を記録します。

左側に事項は永遠の生命の目標に向つての進歩を示し、右側は人生に於けるその他の活動の概略を記すのであります。学歴とかその他の業績を記し、生涯の詳細な記録は記念の書にゆずるべきであります。

子供の日曜学校ガイド(六月用)

詩は子供たちの言葉である!!

静かに流れてくる詩の朗読、じーと目をとじ、耳をすましてください。如何? その短い言葉は貴方を見知らぬ、美しい新世界へとひっぱってってくれるでしょう。ホラミネ。このような経験をお持ちの方は多勢いらつしやると思います。詩が子供たちにとって、多くの良き影響を与えることにふれてみましょう。子供たちは、美しい響きを持った楽しい詩の中からたくさんの事柄を学びとるの



す。彼らは、その詩を聞く時、小さな頭に一杯に果しない世界、夢、考えが広がっていくのです。詩は感情を伴い人々の心にうったえるものが含まれています。子供たちに詩を聞かせてあげる時、やさしい言葉で彼らに容易に理解できるものを選びましょう。讃美歌もオルガンに合わせて唱うだけでなく、メロディをバックに流して朗読すると、大変素晴らしいものです。忘れてはならないことは、これらの詩を通して、彼らに祈りを教えてあげられることです。さあ、今日からでも、先生方、御両親も揃って詩に親しみましょう。そして詩を作ってみませんか。心に感じたまま形式にこだわらず。クラスの中にも取り入れてみてください。皆さんが、びっくりするほど立派な詩を作ってくれますヨ。

「夜も昼も」

その一

天のお父さま

新しい一日をお与えくださって

ありがとうございます

皆んなと元気に遊べますように

夜ねむっている時もいつも

私を守ってください

その二

幼くしてお祈りする良い子たち

朝でも夜でも毎日

天のお父様はあなたの祈りを

きいてくださいます

お父様は

お祈りする子が大好きです

その三

天のお父様

夜空に輝く星をお与えくださって

感謝します

空はとても暗くとも

星の光はやわらかく暖かく

光りをはなっています

「雪」

天のお父様

心からありがとう

夜の間にこんなに雪をふらせてくださっ

て

今朝おきてみたら

外は真白でふわふわ

まるで綿みたい

「成長」

その一

愛する天のお父様

どうぞ私に力をかしてください

色々なことで困っている時

親切にそして真実に

どうぞ私に勇気をお与えください

正しいことをなす時に

その二

この世に生れたことを

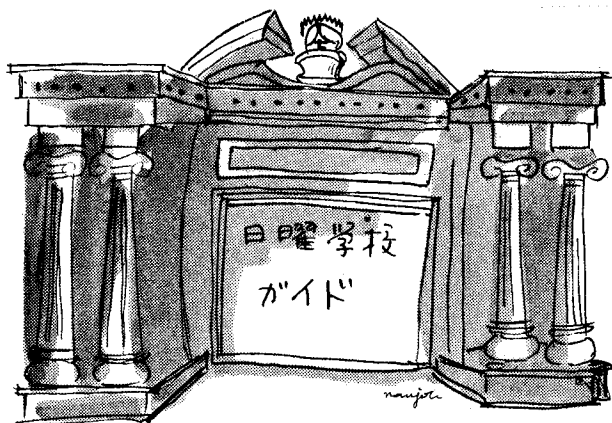
僕は感謝します

年ごとに無事大きくなりますよう

お守りください

大好きな私の家族やお友達も

愛してください



6 月 用

祈り会

祈り会はあくまで日曜学校に参加する人々が神の御霊の助けを受けるよう祈ることが主目的ですからゴタゴタしながらプログラムをきめたり、開会間際に忙しく終らせようとするのはなるべく避けたいものです。祈り会とは日曜学校の開会の二十分前（十時半開会のときは十時十分）に始め十分以内に終わらせて下さい。子供の日曜学校の開会の時間が同じのときは一緒に祈り会をもつのが望ましい。ここに出席すべき人は日曜学校担当の支部長会の兄弟、役員教師（歓迎委員は除く）、祈りをする人、二分半の話し手など日曜学校に参加する人全員です。順序は特にきまつておりませんが次の要項は模範的な祈り会に必要です。

- (1) 開会の歌：讃美歌の中から選び、時間の関係上一番だけで良い。
- (2) 司会者によるプログラムのチェック及び発表：二分位で簡単に終わらせる。二分半の話し手が来ないときは役員、教師がピンチヒッターとしていつでも代行できるように話を用意しておくこと。
- (3) 霊的な話か聖句朗読か文豪の一文章、詩の朗読：二分半位でいろいろ交替してお

もしろくやって下さい。

- (4) 祈り：長くならないよう。
- (5) 皆の時計を正しいのに合わせる。

全教師に捧ぐ

ロマ書の中に「ああ麗しいかな、良きおとずれを告げる者の足は」という神の御言葉を伝えるあなたがた教師を讃える聖句があります。まことに永遠の生命に至るこの福音を教える教師はいくらそのすばらしさを言っても言い過ぎることはありません。その反面人に与える影響の重要性はいくら強調しても言い表わすことはできません。そこで実り豊かな収穫を得るべく準備していらっしゃるあなたがたの御参考までに今まで毎月二頁をレッスン資料として図表などを書いて参りましたが最近始めて教師になる人が多く、教師として知っていなければならない最低限のものをまず教えてくれないうという御要望を度々聞くことがありました。そのため今までの図表を一応中止して、教師としてこれだけは知っていただきたいことを今年一杯ここに書いてみたいと思います。（大部分の教師には不要かも知りませんが一応おさらいのつもりでお読み下さい）内容は二つに分かれており、一

つは福音の基礎的なもの（家庭集會に少し毛が生えたようなもの）で覚え易いように系統的に、また図表的に書きます。もう一つは前日の曜学校ガイドに載っていたような技術的なもので福音をいかに効果的に生徒に理解してもらおうかというテクニクを書きます。

今回のテクニクは準備についてで基礎的な福音は教会略史と参考聖句です。

テクニク講座Ⅰレッスンの準備

あなたがたが教師に選ばれたとき、どのようレッスンを準備したらよいかわかりうろとお考えになったと思います。ここではある優れた教師の準備の仕方と共に学んでみましょう。まず彼は教科書のレッスンを二回読んでレッスンの目的及び結論を次の頁にある表に書きこみます。そしてその結論に導くためのレッスンの順序を途中に質問を出したり、聖句を読んでもらったりするのを頭に画きながら時間をきめて組立てます。そのときなるべく生徒の興味を引くような時事問題、科学的なもの、新聞で評判のものなどを巧みにとり入れてレッスンを生き生きとしたものにする。ことにいつも気を配っております。彼のレッ

スン準備ノートをみてみましょう。（次頁）
1 目的、結論

レッスンは主題や目的から離れないように、また最後には結論によってまとめられるように書いております。

2 始めて来た人を皆に紹介

まずレッスンを始める前にバラバラに坐っている生徒を前の方へつめて坐るよう、また教科書をもっていない人にはもっている人がみせ合うようにするよう、また始めて来た人を皆に紹介するように努めます。

特に始めてクラスに入ってきた人の名前をよく覚えて聖句や教科書を読むのを手伝ってもらうようにします。またレッスンを始めるときクラスが少しざわついている場合は簡単なお祈りをしてもらう。

3 復習

先週のレッスンの復習を概要と結論を導くような質問を三つ四つ用意しておく。復習をやりながら今日のレッスンへの糸口を上手につける。スムーズに今日のレッスンに入ることはとにかく難しいが、また教師のダイゴ味もある。

4 レッソンの概念を簡単に話す

これはしなくてもよい。なるべく生徒た

ちが沢山はなすいろいろなとレッスンを組立てて下さい。

5 結論

最後に結論を生徒自身の口より言わせるよう導きながらレッスンをまとめる。

6 質問及び来週のレッスンの紹介、割当て
生徒たちより今日のレッスンについての質問を受ける。また最後の二分は来週のレッスンの紹介と簡単な割当てを頼む。この割当てはレッスンを皆で共に活潑に進めて行くにはなくてはならないものである。

教会略史と参考聖句

事 項	年 月 日	参 考 聖 句
ジョセフの誕生	1805 12 23	ジョセフ・スミスの著 2:3
ジョセフの見神	1820 初春	" " 2:14
モロナイ天使現れる	1823 9 21	(" 教義と聖約 " 2章 2:29)
モルモンの金版受取る	1827 9 22	ジョセフ・スミスの著 2:59
小神権の回復	1829 5 15	(" 教義と聖約 " 13章 2:68)
3人、8人の見証者	1829	モルモン経の前文
教会の回復	1830 4 6	教義と聖約 20章
主現れる	1832	" " 76 "
南北戦争予言さる	1832	" " 87 "
智恵の言葉	1833	" " 89 "
カートランド神殿の献堂	1836 4 3	" " 110 "
死者のための儀式について	1842	" " 128 "
神殿結婚	1843	" " 132 "
ジョセフの殉教	1844 6 27	" " 135 "
ソルトレークの谷	1947 7 24	" " 136 "

アダムについて (善悪の木の実、追放、神の王国) モーセの書 4～5 章

エノク (シオンの町について)

" 7 章

エジプトス、アブラハム神権を受ける

アブラハムの書 1 章

コロブ、宇宙、予任

" 3 章

最初のパプテスマの体験

オリヴァカウドリの著

レッスン準備ノート

X 月 Y 日 Z 章 シューベルトとその歌曲について

目的

結 論

レッスンの進め方

時 間	内 容	参考、文献、聖句
10.50	始めてきた人を皆に紹介（始めての人）	
10.52	先週の簡単な復習（質問）	
10.57	今日のレッスンの概要……………	
11.02	聖句を読んでもらう	マタイ 章
11.04	聖句の意味を簡単に説明してもらう	
11.06	……………という質問を出す	
11.07 : : : : : : : : : : : : : : : : :		教義と聖句 章 節
11.26	結論を言って終る（なるべく生徒に言わせる）	
11.28	質問を受ける （ない時は一人一人に簡単な問題を） 出して答えてもらう	
11.33	来週のリッスンを紹介	
11.35	来週のリッスンの割当を数人に頼む	

- レッソンの成功・不成功の80%はその準備の如何にかかる。
- 準備は教師に確信と自信を与え、不安と恐怖を取り除く。



MIA

リーダー

MIAの月間レポートの 書き方について

MIAの書記は毎週の記録を明確に記入したMIA記録ノートを持っておられることでしょう。MIA書記の仕事はとても大変なことで、どんなに小さな集会であってもMIAの主催で開かれたならば記録を取らなければなりません。少なくとも、開催された日時、場所、参加者数だけが必要であって、書記が完全に其の任務を果すなら、其の日のプログラムの明細（司会者、祈禱者、プログラムの内容等）と、参加者の氏名を確実に記録すべきです。それ等の記録簿はMIAの会員がマスクMメンや、ゴールドデン・グリーンナーの受賞に当って大切な証認の記録となるからです。また使い終った記録簿（伝道本部より購入したもの）は、翌年一年間はその支部に保管されその次の年に伝道部に送られます。伝道部ではその記録を保管します、さて、毎月のMIAの統計のレポートを各支部毎に伝道部MIA中央管理委員に提出するわけですが、期日は、翌月の五日迄となっています。送付される場所は先月号に記載し

た通り佐藤裏二兄弟宅（東京都練馬区春日町一丁目二六一〇番地です。佐藤栄子姉妹は伝道部MIAの書記を兼任している。）

今の所レポート用紙が英文になっています。いずれ支部月間レポートは和文になると思いますが……現在の所英文のため送付されたレポートに二、三の間違った記入が見出されましたので記入方法についての説明を加えたいと思います。

まずレポート用紙の一番上の記載場所に、支部名と地方部名のみ記入して下さい。伝道部の名前迄記入する必要はありません。その右の欄に何月と入れ、一九六二年と記入します。次に各マスの中に記入して行くわけですが、和文のレポート雛型を参照して下さい。

年令別クラスの所で一番上の欄 (Mutual Study YM, YW) のクラスは本伝道部にはありませんのでその所は空欄になります。

次の若い既婚者のクラスの所は、現在此のクラスもありませんが、支部の中で十八才以上の既婚者がMIAに出席していたら、この欄に記入して下さい。（特に近いうちにこのクラスを設ける計画がありますので、今伝道部で統計を取っておりますから、必ず記入して下さい。）

次は、Mメンとグリーンナーですから、よくわかると思います。十八才以上で未婚の男子女子です。その次の欄はエンサインとローレルですが、本伝道部には、マイヤー、メイドバンガード、ビーハイヴ等のクラスがありま senので十七才以下の少年、少女は全部、エンサインとローレルのクラスとして記入して下さい。

では右の方へ項目別に和文を参照しながら記入してみ下さい。指導者の項で、補助指導があれば勿論記入の数に入ります。

登録人員は三回以上M I Aに出席した人を登録された会員とするわけです。

平均出席率は、少数点以下二位迄出し四捨五入して、少数点以下一位迄を記入して下さい。教課の確認は、その年のテキストを使用している支部に於いては、×を記入し、また特別のテキストを使用している支部があるとするば、そのテキストの名前を記入して下さい。次の項クラスを開いた回数は勿論、年令別クラスのこととレッスンのクラスです。

次の項は、年令別クラスに於いてカレンダーの中に提案されているプログラムが確実に成功した、即ち行われた回数を記入して下さい。毎週カレンダー通りのテキストを使用し

てクラスを開いているとすれば左の欄と同じ数字になるはずです。以上でマスの中が正確に記入されると思います。

さて、その下の欄、活動の記入に移ります。最初の所はファイヤー・サイドを一ヶ月間に開いた回数と平均出席人数です。

次は活動のクラスの一ヶ月間の記録で、最初にダンスのクラスの開かれた回数、平均出席率。次の欄は、演劇を上演した回数で一幕もの、(または寸劇)次に二幕以上の大作。そして、その上演に際して参加関係した人数。

次の欄は音楽を演奏した回数と、演奏に当って参加、関係した人数。

次は演説会の回数、討論会を開いた数、朗読会をやった回数です。

次の二つの欄もおわりの様に男子運動競技を持った回数、参加した人数の合計、女子スポーツを持った回数と参加した人数の合計です。

最後に、その支部に於いて特別に催された会(例えばM I A主催の夕食会や、伝道部資金獲得のダンス・パーティとか、ピクニックやキャンピング……etc)については、裏面に簡単に報告して下さい。

全部記入が終つたらM I A男子会長はサインして、住所を記入します。そして右の方の小さな口の一番上の中に、×を記入して下さい。レポートは三枚書いて一枚を伝道部へ送付し、一枚を支部長会に提出し、一枚をM I A書記が保管します。

以上で説明を終わりますが、御質問があれば御寄せ下さい。また或る支部では宣教師の方がM I A会長をしておられる事があると思いますが、多分書記の方はほとんど日本人であると思います。反対に書記を外人の宣教師の方がやっている支部があるとしたら、どうぞ、よく記入方法について説明し、手伝つてあげて下さい。またM I A書記の方が、なまけていて、レポートの仕事を、支部の忙がしい宣教師に押しつけてしまわない様にして下さい。その月の最後のM I Aが終つたら、すぐレポートの作製に取りかかって下さい。各支部のレポート提出が遅れますと、この伝道部のレポートをアメリカのM I A中央管理会に提出するものも遅れてしまいます。また不確明な字や、間違つた記入法で報告されますと、正しい統計が出せなくなります。記入終りましたら、充分読みかえて確認したものを提出して下さい。(では今月のレポート、遅れない様にネ)

MONTHLY COMBINED YM AND YWMA MISSION REPORT

FROM THE.....FOR THE MONTH OF 19.....
 支部 地方部 伝道部

年 令 別	指導者数	登録人数	平均出席率	教えられている教課課程の確認	クラスを開いた回数	予定されたプログラムの実施回数
既 婚 者 Y M						
Y W						
M メ ン Y M						
グリーナー Y W						
エ ン サ イ ン (17才以下)						
ロ ー レ ル (17才以下)						
合 計						

※Mメン・グリーナーの級は18才以上の未婚者

一ヶ月間に開かれたファイヤサイドの合計数.....平均出席率.....

一ヶ月間に下記の活動について行われた回数を記入せよ。

ダンスの数.....出席平均.....

上演した演劇：一幕物寸劇.....二幕物以上・大作.....参加人数.....

催された音楽.....参加人数.....

開かれた演説.....討論会.....朗読会(物語り・詩・聖句等……)

YM運動競技.....参加者合計数.....

YWスポーツ.....参加者合計数.....

(特別な活動について簡単にこの用紙の裏面に記載せよ。定例集会以外のM I Aの出来事、例えば大会等について……)

.....M I A 管理会長サイン

☐ 支 部

☐ 地方部

.....住 所

☐ 伝道部

六月七日

「バナナ・イヴェンツ」

この日はエンサインとローレルは分かれま
す。エンサインのクラスは男子MIA会長が
クラスのリーダーとなるはずで。

「エンサイン・ローレルの手引き」八十五
頁を参照して下さい。特別のバナナ・イヴェ
ンツは、別としてこの日に行われるものは、
MIAの定例集會日に催されますので、レッ
スンの時間の範囲内で行われなければなりま
せん。ですから提案されているプログラムの
中の(三)、(四)、(五)、(六)、(七)、(八)等
を選ぶ方が良いでしょう。我が国に於いて
は(六)の射撃場もしくは大弓場に於ける一夜、
というような場所が健全な所がないので、そ
れを計画しない方が良いでしょう。盛り場等に射撃場
や弓場があるが我々MIAの会員の出かける
べき所ではない。また定例集會日以外の一日
を大きな「バナナ・イヴェンツ」として計画
を立てるのも良いでしょう。その時は、提案されてい
る他のプログラムを行うことが出来るでしょ
う。

ただし(四)をやることは充分注意して欲し
い。未成年者であるエンサインの会員が銃器
不法所持等の法律にふれたり、或はそれによ
る間違ひのおこらない様に、また単なる興味

本位の会を開かない様にして下さい。

地方部単位、或は地区単位で大きな「バナ
ナ・イヴェンツ」を催すのも良いでしょう。

榮子記

六月七日「美のためのアダパール」

今夜はエンサインと分れます。女子MIA
副会長がクラスリーダーとなります。

「エンサイン・ローレルの手引き」二百八
頁を参照して、レッスンをして下さい。

レッスンをやるにあたって、クラス・リー
ダーは、聖書(旧約・新約)の中や教義と聖
約、モルモン経等の中に女性の美德をたたえ
たものや、衣裳や「外見だけの美」のみにく
さ、等を適確に表わした聖句が沢山あります
からそれらを引用すると良いでしょう。また
この機会に、新しく姉妹になられた方々やお
友達にMIAに於ける服装の標準を話してお
いて下さい。これからだんだん暑くなると、
スリーヴレスやローネックの服が多くなり、
ごくはでな衣服や、バックレス等で肉体を露
出したものがMIA定例集會には着用されな
い様に注意して下さい。ローレルだけの集る
機会でですから話し良い事でしょう。(一九六
一年六月号の聖徒の道参照)

榮子記

六月二十一日「音楽と寸劇」合同活動

今月は一般活動がありません。グループ活

動の時間に全員で一つのプログラムに参加す
るわけです。

音楽と寸劇になっていきますので別々のもの
をやらずに、一つのミュージカルを持って良
いと思います。

まず責任は会長が全員当ります。そして
音楽と演劇のクラス指導者がその企画の責任
を取ります。各クラス一名ずつのアシスタ
ントを加えて合計四名で合議すると良いでしょう。
最初に定めなければならないことは、音
楽と演劇と、別に催し物を出すか、両方一緒
にしてやるかと言うことです。それによつて
大綱が定まりましたら、ではこまかい内容につ
いて検討してみましょう。時間は大体、四十
分ありますから、やり方によっては、かなり
大きなミュージカルが持てるでしょう。或は
音楽と音楽の間に寸劇をはさんでも面白いこ
とでしょう。各クラスの人々の希望をまとめ
ておいて、参考にすべきですし、なるべく、
クラスの全員が何等かの形で参加している様
にして下さい。宣伝の仕事、招待の仕事、舞
台装置や衣裳、大道具、小道具の作製、コー
ラスや器楽合奏等、参加出来ることが沢山あ
りますね。

出来るだけ早い宣伝と、企画は、会を成功
に導くものです。よく、ある支部のMIAに
出席していると、(二九五頁に続く)

扶助協会ガイド

百花咲き香る季節を迎え、聖徒の道を通して扶助協会の皆様にお話する機会をあたえられました事を心から感謝しております。

生を受けし者の中で最も価値有る者となる為に教会の会員として働いている皆様の上に常に神様の導きと御恵みの有る事を知って私の心も喜びに満ちています。今も北に南に皆様の愛の手が多くの人々に光をあたえているでしょう。今日私は特に東中央地方扶助協会の皆様に二、三の提案をして御協力頂きたいと思ひます。

第一に、会員は扶助協会について良く知っていただきたいのです。会長会の皆さんは「扶助協会の手引き」を良く読んで、総ての会員が扶助協会の責任についてよく知るよう指導してください。自分の責任が良く理解

できれば一層熱心にその目的に向って進む事ができます。

第二に、集会はあたえられた計画にそつて時間通り行うようにしてください。扶助協会のレッスンは私たちの霊的、肉体的の進歩のために計画され、全世界を通して行われます。私たちは世界中のモルモンの姉妹と共に歩むために、確実に毎週決められた時間に添つて実行してください。遅い誰かのために始めの時間が終りにならないように。

第三に、扶助協会の記録を正しく良く記録してください。特にその収支については少しの間違いもないようはつきり記録して、誰が見てもすぐわかるようにしてください。扶助協会の活動と収支の記録をはつきりさせて置くことは、良き結果を導き出すために、また

お互の誤解を生まないために特に大切です。

扶助協会の会長はその金銭の出し入れに特に心をくばつて会長会に計り会長会の署名のもとに支出するように、またできるだけ現金を手元に置かず預金をしてください。預金は利息を生みますから少しであっても私たちの活動を助けますし、安全に会の財産を守ります。第四に、扶助協会の役員は家庭訪問を良くして、常に姉妹たちの良き相談相手として色々の問題に助けを上げて下さい。教会に出席しなくなった姉妹には助けを必要とする問題が有るのかも知れませんが。愛の手が姉妹達の間で常に結ばれているように。また良く個人の秘密を守り、心ない噂のまかれぬように注意してお互の信頼を深め、言葉が人を殺すことのないようにしましょう。

今年の計画が良くなされていることと思
います。それを計画通り行うために以上のこと
は非常に大切であります。東中央地方扶助
協会会長並に会員の御協力を心から御願申
します。

(二九三頁より続く)

「来週は何々がありますからお友達をつれて
行らっしゃって下さい」等と集会の終った、
雑然としている中で発表している事がありま
すが、あれでは、当然、その会についての興
味も期待も持てません。やはり視覚にうった
えるもの、ポスターや、チラシを作りまし
う。そして唯一週間前の発表だけでなく、も
っともっと早くから発表して、多くの人に興
味や期待をおこさせる様にして下さい。

☆ 貴方はMメン・グリーンナークラスのテキ
スト、生活の目標”を持っていらっしやい
ますか？ 定価は百五十円です、売り切れ
ぬうちに……今すぐ申し込みましょう。

☆ 貴方はエンサインの誓いを知っていらっ
しやいますか？ 或は、ローレルの誓いを
？ 素晴らしいプレゼントがいっぱいある、
「エンサイン・ローレル」の手引きを買い
ましょう。定価は百五十円です。

料理



中で御自慢の御料理が御座居ましたなら、聖徒の道か、扶助協会宛にお
送り下さい。

五 目 い な り ず し (五人分)

米Ⅱ五合(一K弱)Ⅱ砂糖・醬油・塩で、すしめしの味付けをする。

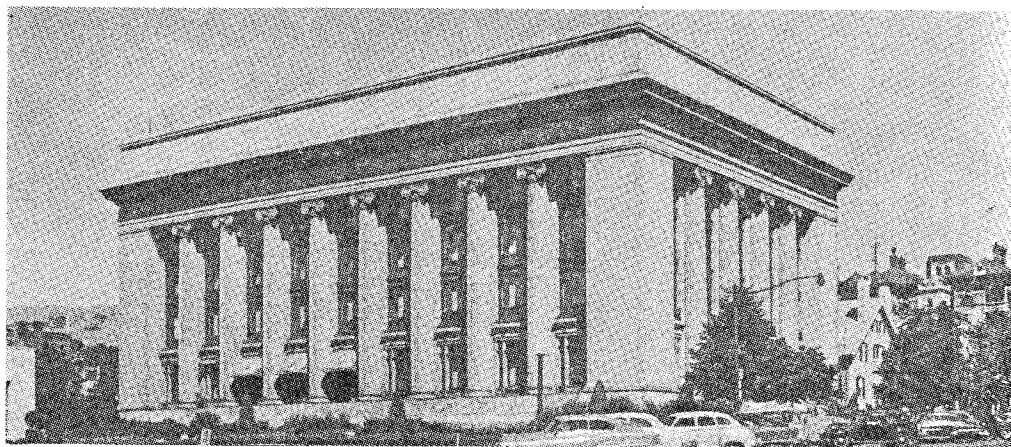
ハムⅡ一三〇gⅡせんぎりにする。しいたけⅡ大三ケⅡうすくたてに切る。

化学調味料少々 かんびょうⅡ少々Ⅱみじんぎり 人参Ⅱ小半本Ⅱせんぎり
パセリⅡ少々Ⅱみじんぎり 油揚げⅡ小揚(いなりずし用)

①小揚は前もって一度熱湯で油抜き、そして後、砂糖、醬油、化学調味料で
味付けをしておく。②しいたけ、かんびょう、人参は小揚と同じく味付け

をし、よく汁をしぼっておく。その時の汁を少しとっておいて、洗ったお米
の中に色付く程度に混ぜ合せておく。③ハム、パセリは②の材料といっし

よに出来上った御飯によく混ぜ入れる。その後①の小揚の中に包み入れる。



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹

29

第三部 オハイオおよびミズーリ時代

第十七節 「誠命の書」「種々の光栄」の

示現—ハイラムに於ける暴動

(千八百三十一—千八百三十二年)

十八、ハイラムに於ける暴徒らの乱暴(つずき)。予言者がわれに返ってみると、シドニー・リグドンが気絶して地上に横たわっていた。悪漢らはシドニー・リグドンもその家からひっぱり出し、足首をつかんでひきずってきたので、彼は一足ごとに頭を凍った地上にうちつけて気絶してしまつたのであった。三百メートルほど家から離れたところで暴徒らはこれからどうするかをきめるために相談をした。数人の者は今にも予言者を殺そうとしたが、予言者のところへ戻ってきて彼の口をあけ一瓶の酸(硝酸)をむりにのませようとした。しかし、その瓶は彼の歯に当たってくだけた。それからまた彼の口の中へタールを一ぱいおしこもうとしたが、これも失敗したと見るや悪漢たちは彼の着物をはぎとり、彼の体にタールをぬって鳥の羽毛をくつつけた。そしてひどく彼をうち叩いてからぐったりとした彼を地上にすてておいて去つた。ジョセフは立ち上ろうとしたがまたばったりと倒れた。しばらくたつてから彼はようやく力づきやつとのことで家へ向つた。

シドニーも同じ目に逢つて、それから数日の間彼はうわごとを言つて過した。予言者の友人は、予言者の体からタールをふきとるのにその晩一晚かかったが、そのあくる日は安息日であつたので予言者はいつもの時間に集会へ出て人々に説教をした。

この時前夜乱暴を働いた暴徒の数人が集りに出ていた。その中のシモンズ・ライダーという背教者が暴徒の首領であつて、マクレンテックとフェラティア・アレンという二人はさきに暴徒らの意氣をさかんにし「立派に」あの行為をやらせるために一樽のウィスキーを暴徒らに与えた者たちであつた。この乱暴が行われた間に、ふたごの中の一人はそとに放置しておかれたために風邪をひき、それから数日たつて死んでしまつた。

十九、再びミズーリを訪れる。 四月一日、ジョセフ・スミスはニューエル・K・ホイットニーおよびジェシト・ゴースと共に貧しい者たちの庫と全財産献納の件を規定し確立することに関する啓示（教義と聖約第七十八章）の条項を実現するためミズーリに向けて旅立つた。シドニー・リグドンが後からこの三人に加わつたが、旅の途中彼らはシオンで発行する出版物用の紙をヴァージニア州ホーリングで買い、四月の二十四日にインデペンデンスに着いた。それから二日後、教会の総評議會でシオンの聖徒はジョセフ・スミスが大神権の長であることを承認し、千八百三十二年一月二十五日に開いたアマーストの大会の決議を批准した。

二十、シオンとそのステーク部。 この大会中に啓示が下つて、長老たちは破ることのできない全財産献納の誓約を結ぶように命ぜられた。カートランドは「シオンのステーク部」となるはずであつた。「今は、将来時来らばいと高き神の聖徒とシオンのステーク部の為に、われシネハ（カートランド）の土地を聖くしたればなり。すなわちシオンはその美と聖とを増し、その境域は拡がりそのステーク部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ、シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからずと。されば、われ汝らにこ

の誠命を与う。すなわち汝らこの誓約によりて責任あり。而してそは主の律法によりて為さるべきなり」と主は仰せになった。

二十一、カートランドへ戻る。 ジョセフとほかの兄弟たちがコーン・町に居るコーレスヴィルの聖徒らを訪れたとき、彼らは一行を見てひじょうに喜んだ。

五月の一日に開かれた評議會で「誠命の書」を三千部だけ印刷すること、オリヴァ・カウドリ、ウィリヤム・W・フェルプスおよびジョン・ホイットマーが啓示を再調査して準備をすること、およびエマ・スミスが讃美歌を選んで印刷の準備をすることなどが同意された。そのほかに必要な事務を処理してからジョセフ・スミスとその同僚であるシドニー・リグドンとニューエル・K・ホイットニーとはカートランドへ戻つた。この旅行中ジョセフは毒を盛られ、ホイットニーは事故に逢つて足の骨を所々折つたが二人とも主の御力によつて癒やされた。

第十八章 大管長会の組織——重要な啓示の数々

（千八百三十二年—千八百三十三年）

一、重要な啓示の数々。 千八百三十二年の秋に、またひきつづきその冬から千八百三十三年の春にかけて、多くの注目すべき啓示が教会員を教え導くために与えられた。教義や靈に関する真理はもちろん、科学や哲学に関する大原則も啓示された。

九月の二十二日と二十三日に、教会の多くの長老たちの請求にこたえて神権の歴史と権能とが啓示された教義と聖約第八十四章。すなわち神権の位に按手聖任された者の負うべき責任が説き明さ

れ、忠実な者に、彼らが父なる神の祝福をのこりなく受けるという約束がはっきりと示された。それは主が「神権に属ける誓詞と誓約とによりて」、「何人にまれ一度この誓約を受けて後これを破り、またことごとくこれに違背する者はこの世に於ても未來の世に於ても罪の赦しを受けることなし」とこの約束に附帯している罰と共に明言されたからである。また大神殿の建つべき場所とその時日、そのほか聖徒の集合、シオンの建設とその贖いなどを取り扱っている多くの事が説き明された。

十一月二十七日、主はシオンに於ける聖徒の嗣業^{すうぎ}をとりきめるために「一人の強くて力ある者を遣わさん」と述べたもうた(教義と聖約第八十五章)。十二月の六日、小麦と蕎麥に関するたとえ話が説き明された(教義と聖約第八十六章)。クリスマスの日、その後事実となつてあらわれた。戦争の予言が啓示された(教義と聖約第八十七章)。それから二日後に「かんらん^{かんらん}の葉」と呼ばれている科学的教義的の真理に関する注目すべき啓示が教会員に与えられ、この驚嘆すべき天からの交通の中で、とりわけ次のような永遠の原則が明らかにされた。

すなわち、キリストの光は真理の光にしてまた日輪と惑星と諸星との光であり、而してまたそれらを造つた力である。それはまた人の英知を生かす光であり、またすべてのものの中に在る光であり、すべてのものに生命を与える光である。しかもすべてのものを支配する律法にして広大なる宇宙に満ち充ちている。

およそすべての王国にはみな律法が与えられていて、そのいずれの律法にもまた各々制規と条件とがある。いかなる空間にも王国なきはなく、また大なる王国も小なる王国もその中に空間なき国はな

い。空間にあるあまたの世界にはそれぞれわれらの父なる神の子らが住む。われらの住む地球は一つの生き物であつて、いつかは死なねばならぬが、日の栄の天体となつて復活し、日の栄の体をもつ者たちの住家となるにちがいない。この地上に住む者で不忠実な者たちは、永遠に別の国に住まなくてはならない。日の栄の国の律法に堪えない者は日の栄に堪えることができない。復活体を受けたあらゆる者は、各々到達した栄の国の栄によつて生かされる。人間は霊と体とより成る。霊と体とがもとの状態に贖^{くわ}なれるのはイエス・キリストの死と復活とによる。長老たちの証詞の後から審判^{しはん}の証詞が来る。救い主の来りたもう前に現われるしるしの順序が示される。義人の復活、「大いなるにくむべき教会」の滅亡、そのほか悪人たちの行く末がこの啓示の中にある偉大な真理の中で明らかに告げ知らされている。

千八百三十三年二月に、主は人間にこの世の「救い」を与えるため「知恵の言葉」(教義と聖約第八十九章)をジョセフ・スミスに下したもうた。また千八百三十三年三月十五日に、物質の永遠性に関する教義、神の栄光は英知である、太初に人は罪のない者であつた、そのほか多くのことが啓示によつて知らされた(教義と聖約第九十三章)。

二、予言者の聲。 千八百三十三年十二月二十七日の啓示(教義と聖約第八十八章)の中で、教会の長老たちはまた「汝ら互いにこの王国の教義を教うべし」と命ぜられた。長老たちは自分らの理解する必要のある「理論と原理と、教義と福音の律法と、神の王国につけるすべてのこと」をさらに完全に教わるはずであつた。また長老たちは「主の口によりて指定さるる者たち皆律法を束ね、証詞を

結び固め、来るべき審判さいはんの時のため聖徒らの備えをなすために、これを最後に異邦人の中に出て行く」前に、この教えを受けるためカートランドに留るはずであった。また「最も善き書より知恵ある言葉を探し求め」また正に研究と信仰とによつて学問を求めるはずであった。この目的を達するために彼らは祈りの家、信仰と学問の家すなわち榮光の家である神の家を一つ備えるはずである、そしてその家に於て彼らは聖会を招集し、一人の教師を指名して、すべての人々をして一度に口をきかせてはならない。一人が話している間には他の人々がみなその言うところを耳を傾けなくてはならない。このように「予言者の塾」には完全な秩序が保たれるはずであった。「予言者の塾」と呼ぶのはそのように命名されたからである。さらに主は次のようにはっきり仰せになった。すなわち「およそ、塾の塾長の家の規律とは次の如し。すなわち、塾長として教師として任命を受けたる者は、彼のために備えらるる家に在りてその立つべき地位に立つものとす。故に、この者は神の家に第一に入るべき者にして、高声にて語らざるも、家の中に在る会衆心して明らかに彼の言を聴き得る地位に在るべきなり」と。この塾で学ぶ者たちは「大祭司より始めて執事に至るまで」教会に於ける福音のためにはたらく働らきに召された人でなくてはならない。彼らは正しい挨拶の方法により、会員同志の愛を以て互いに挨拶をすべきであった。彼らは今の世の血より清められた、まじめな、信仰に満ち充ちた人々でなくてはならない。さらに主は次のように仰せになった。すなわち「汝らは、主の家すなわち予言者の塾にてすべて汝らの為すところを「みたま」の告ぐるままに、祈りと感謝とによりてこれを為す様に要求せらる。かくて塾は清き処となり、汝らの教養のために聖き

「みたま」の宿る処とならん」と。

三、ブリガム・ヤングその他の人々来る。 九月十日、ジョン・

スミスの息子であり予言者の従兄弟であるジョージ・アルバート・スミスはニューヨーク州ボツダムでバプテスマを受けた。彼はこのとき十五才であったが、後年末日に於ける働らきの中で重要な役割を演ずることになった。十一月の八日ごろ、ジョセフ・ヤング、ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、ジョン・P・グリーンなどの人々がニューヨーク州、モンロー郡、メンドンからやってきた。これがジョセフ・スミスにこれらの人々が会った最初の会合であった。彼らはカートランドにしばらく滞在して、たびたびとくに予言者に会うことを許された。彼らがたびたび予言者に会ったうちに一度ブリガム・ヤングとジョン・P・グリーンが異言を語り、予言者もまた異言を語ったことがある。これらの兄弟たちはすでにメンドンに於て福音を受け入れていたのであった。彼らが始めて福音に注目したのは千八百三十一年の夏か秋かのことであって、それはサムエル・H・スミスの働らきによる。彼はジョン・P・グリーンのところへ一冊のモルモン經をおいてきたのであった。後にアルフー・ス・ギフォード、エリアル・ストロングその他の人々の説教により、彼らは信じて福音を受け入れるに至った。ブリガム・ヤングは千八百三十二年四月十二日エレアザル・ミラー長老からバプテスマを受けた。それから長老に按手聖任されてただちに福音を伝える働らきを始め、ニューヨーク州メンドンの附近で教団所の支部を設立することを助けた。

扶助協会 レッスン

「社会科学」

福音計画の中に於ける婦人の地位

第七課「完全な生活と日の栄の最高に昇ること」

目的 一日の栄の最高に昇る祝福に達する律法に従うことが大切であることを強調し、また福音計画の中に於ける婦人の地位を総括する。

末日聖徒の家族の目標とするとところは「その家族をして、家族の各々が出てきた日の栄の王国の故郷、すなわち永遠に父なる神と母なる神とが住みたもうところにある「長子の教会員」の群の中へ戻って行けるような生活をさせることである」(J・リューベン・クラーク・ジュニア副管長、扶助協会誌一九四〇年十二月号)。

「主なるわれは、汝らがわが言ふところを行ふときに責任あり」人類に約束されたすべての祝福を受けるためにまず必要なのは神の誠命に従ふことであります。

「教義と聖約」第百三十三章二十一節には次のように言っています。

「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの變はされる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり」。

聖典の中には「選ばれた民」に与えられた多くの約束があります。が、この一つ一つの場合にその約束による祝福が実現するためには、その民が主なる神の声に聞き従い、そのみこころを知り、これを日常の生活で実行しなくてはなりません。

結婚は神の命令であります。私たちは啓示によって、もしも神の下したもう祝福を完全に受けたいなら、神殿結婚というたとくべつの結婚があることをはっきりと知らされていきます。神殿結婚をするために神殿へ入る特権を得るには、身も心も共に清い貞操の律法をふみ行い、且つキリストが実に神で

あつて、その福音の計画が神聖であるという固い証詞をもっているというような、人間として最高の行いの標準に一致する必要があります。

私たちの生活の中で、神の導きを得るための道を開くものは正しい生活であると思われれます。また、私たちが律法に従つて努めなければ、神の助けすなわち神の祝福は私たちに与えられないと思われれます。

ここに引用しなければならぬ聖句がありますが、それは「教義と聖約」第百三十三章の十八および十九節であります。それによれば、「およそ、われらのこの世に於て達する英知の一切は、何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし」

「さればもしある人ありて、精勵従順によりこの世に於て他の人よりも一層勝れたる知識と英知とを得ば、未来の世に於てそれだけ利を得べし」とあります。

そこで私たちは、数々の祝福はみな律法の実行にもとづいていふことに気づくのであります。これは人間が英知に心を留めて、人の力の及ぶかぎりを実現するよう英知を利用せよと言っていることは

であります。主なる神は、聡明な努力をするときに、よろこんで助けて下さいます。

「日の栄の最高に昇るには完全な生活が欠くことのできないものである」

家を建てる人は、達しようとする目的に応じてとくべつの計画を立てるものであります。家の構造が大切であるほど、また金がいかにかかるほど、一層くわしく計画を立て一層くわしい青写真をつくりまします。そこで、これが家のつくり方の方角を示しています。一般に、いろいろな変更や調整があつて始めて家が計画通りに建つものであります。良い計画と、良い職人と、これに加えるに精選した材料があつてその家が現実建つのであります。計画と職人と材料この三つは家と同じだと言うことができます。

これはある程度、立派な家族をつくりあげて永遠の生命を得る資格をつける過程と似ています。神の諸原則に従つて人間の個性を訓練し発達させようとすることは、大へんな骨折りであります。克己自制の性質と自己本位でない性質とを発達させるという果てしない責任、家の中でたえず變つてゆく

個性間の關係を調整するという果てしない責任がそこにあります。それはいろいろな問題に直面して必要なことを満足させるに當つて「私が」「私の」という代りに「私たちが」「私たちの」と言う技術を發達させる困難な仕事であり、生活のあらゆる面で共通の經驗を一しよにすることによって、同じような興味を共通の興味に成熟させる困難な仕事でありますが、一般にそれは根本的のちがいを最も少くしてお互いに調整し合う個々の能力を増し加えるのであります。

自分自身で努力をしなければ価値のあるものは何も得られませんが、人は完成を発見するのでなくて完成を自分で造りあげるのです。理想の家族關係の中で何ものにも代えられないのは互いに調整するという技術でありますが、これは個人個人の成熟している度合に依り、また良い健全な生き方から生ずる生活にも依るのであります。

困難な時にも順調な時にも、自分たちのもっている宗教上の理想と目標の実現を二人して分け合つて、共に五十年暮らしてきた一組の夫婦を見ると「教義と聖約」の

第四十九章十六節に言つてある「一体」ということの大切な意味があります。この夫婦はお互いに信頼し合うようになってゐるばかりでなく、二人して共に働らき計画し調整することによって本当に「一体」となつていますから、たしかに二人にとっては「一体」ということが完全に見現されてゐるのであります。この「一体」ということは二人の生活が旨く行つた成果であります。それは果て知らずになくなって行く「欠くことのできない」という感情であります。

ここに述べたような經驗は、主なる神が約束をなさることができるといつ一つの説明であります。お互いのねうちを完全にあらわすときに二人は神の祝福を受けることができます。それは申し分のない良い生活に對して与えられるものであつて、二人の生活を互いに調和させるといふことは永遠の結婚に對する準備であります。

生活と救ひの計画は、オルガン製作者が技術の限りを尽して造つた壮大なオルガンにくらべることでできるでしょう。もしも赤ん坊がそのキイを押すならば、おおよそ音楽とは言えないかん高い音や、

調子ははずれの音や、ごちゃごちゃの音しか出ないでしょう。またあまりオルガンの練習をしたことのない、音楽の知識を少ししかもっていない人がこのオルガンをひく時には、あまりよくない旋律と調和をとをもつた音しか出ないでしょう。美しい音を出す力とは、オルガン奏者の知識と訓練と腕前とが増すにつれて大きくなるのであります。それでありますから、本当に偉大なオルガン奏者がこのオルガンをひくときには、完全に美しい音質と調和した音とが表現されてこのオルガンの偉大な力が完全に發揮されるのであります。

人間の生活、とくに結婚生活に於いてもこの通りであります。創造者である神の知恵によれば、各人はかくれた偉大さをもつてゐるが、それは立派な結婚生活に於てだけ充分にあらわれるものであります。結婚生活は為すべきことを知つてこれを実践することにより豊かにすることができまゝ。何を為すべきかについては創り主である神から至れりつくせりの指図が与えられてゐます。

神は約束を必ずお守りになります。すなわち、神は生活と「永

遠の生命」に関するいろいろのおきてを定めてこれを完遂する道を指し示しておいでになりまして、もしも私たちが神のおきめになつたいろいろの原則を実践するならば、約束された結果と祝福を必ず得るにちがひありません。そして、私たち一人一人のもつ理解の力と実行の力とに応じた程度の成功が各々に与えられるのであります。

「結婚の永遠性」

このレッスンの冒頭にかかげたクラーク副管長の言葉がはつきり示しているように、家族の生活目標というものは、家族の一人一人が永遠に天の父母のもとへ戻れるようにその生活を組織立てることとあります。この言葉には現在この地上で行つてゐる生活が大切であるという意味が含まれてゐます。結婚の永遠契約が与える数々の祝福は必ずしも全部未来のためのものではありません。実際に未来の世にかかわる数々の祝福や約束も、私たちが今この地上でおきてを実践しなければ本當にこれを実現することはできません。人類が今この地上にあるのは喜びを受け、しかもその喜びをもつと豊かに受けたためであります。私た

ちの教会が行うすべてのプログラ
ムは、教会員の生活を必ず豊かに
満ち足りた生活に於てでありま
す。もしもこの世に於てこの状
態に達することができたら、永
遠の約束は現実となって現われ
るのであります。

神の誠命を守る人々にはすべて
数々の祝福が用意されています。
ジョセフ・フーイルディング・ス
ミス長老は、私たちの教会の正し
い女子会員に対して次のような
げましの言葉を与えておいでに
なります。

「さて、ここでもう一つだけ考
えてもらいましょう。独身でお
られる善良な姉妹たちよ。数々の
祝福が自分には与えられないであ
ろうとおそれることは無い。あな
たたちが祝福を失なわないよう、
いやな相手の申込みでも受け入れ
なければならぬということはけ
してない。もしも心の中に福音が
真理であると思ひ、正しい状態で
神殿の儀式を受け且つ結び固め
た祝福を受けたいというのが、あ
なたの信仰であり希望であつて
も、そのことがこの世で実現しな
くとも、主なる神さまは必ず埋
めあわせをなさって将来祝福を授
けたものにちがいない。神はどん

な祝福でもあなたたちに与えるの
をさしひかえなさることはないか
らである。

此世で祝福がさしひかえられる
ときには、神はあなたたちの心の
ねがいに従つてさばきたもうか
ら、あなたたちにとつてやむを得
ないことに対して祝福を授けない
とはお言いにならないにちがいな
い。」

将来の生活についての約束は測
り知れないほどすばらしいもので
あります。「目がまだ見えず、耳が
まだ聞かず、人の心に思ひ浮びも
しなかったことを、神は、ご自身
を愛する者たちのために備えられ
た」(コリント前二〇九参照)。

「聡括」

一、婦人の高い地位。最初の二つ
のレッスンのしめくりとして、
私たちは婦人が男子と同じように
神の創造物であるとはっきり言ひ
たいと思ひます。婦人は男子の助
け手として与えられ、地を治めて
ここに人間をふやすための協力を
する責任を負われされました。創
造の計画で、神は婦人に対してとく
べつすぐれた地位をお与えになり
ました。婦人に与えられた重い責
任は男子に割り当てられた任務を
補つて完全なものとしておりま

す。まことに、それは生命と救ひ
の計画を成就するにはなくてはな
らないものであります。神権者の
完全な光榮は、立派な神殿結婚を
することによつてのみ得られま
す。これによつて婦人は名誉あり
光榮ある、ひじょうに重要な地位
を占めると共に立派な伴侶となる
責任があるのであります。

この関係の中には平等、すなわ
ち公平な釣合ひまたは比例という
独特な要素があつて、お互いに適
切な力と能力と手段とをもつてい
ます。アダムが神の代弁者として
指名されたときに、一方に於てイ
ブは人類の母になるよう指定され
ました。これによつて健全な家族
組織の基をつくる責任の釣合ひと
区別とが立てられました。婦人と
共に始めて始めて男子は日の榮の
王国の最高に昇ることができま
す。まことに婦人こそ人生という
劇中に於ける主役であるというこ
とがで、人間に「不死不滅と永
遠の生命とを与える」人生の目的
を完遂するために平等の責任を負
つていたのであります。婦人が共
に於てこそ、始めて人類の「ゆ
くさき」を完全に実現することが
できるのであります。

二、母の使命である奉仕。子供を

産むということは婦人に与えられ
た独特の務めであります。きずの
ない健康な体と健全な精神が与え
られることは非常に大切なことで
ありますが、よい家庭に生れるこ
とは何よりも大切なことでありま
す。それは両親が子供の一人一人
に、靈知的物質的の成長と発達
をするよう健全なげましを与え
る資格のある家庭に生れてくるこ
とであります。

母親は家族の人々に食物を選ぶ
ときに深い考えと知恵と用心とを
用いますが、それと同じように家
族の人々に与える靈的精神的の
げましを選ぶに當つて、深い考
えと知恵と用心とを用いなくては
なりません。また母親は、子供に交
際の機会を与えたり指導したりす
るとき最も用心をすべきでありま
す。母親の役目の重要な部分は、
子供が自分自身で選ぶことができる
ように子供の考えを発達させるこ
とであります。

母親はたえず氣をつけて努力し
子供を発達させなくてはなりません。
訓練とは精神を支配してこれ
を有益な方向へむけることであり
ます。人間社会の理想と価値と目
的とは、訓練と服従とにより幼い
時から一生を通じて身につけるこ

とができるものです。最も自由である人は、おきてを知ってこれに服従する人のことであります。

長い間かかって吟味をした行状の知恵に道徳的の価値があります。また神のみことと一致している「人間最上の判断」に道徳的の価値があります。私たちの社会にある道徳的の価値には神聖なところがあります。またそうでなくてはなりません。

家庭の管理は、主に母親の「創造的な働き」であります。家庭の管理は実際に父親と母親との共同責任で行われるのでありますが、主な部分は母親の腕前と個性と勤勉とによるのであります。家中の道具立てを美しくする以外に、母親は家庭そのほかのところに於て自分の子供たちの心を刺戟するものに対する責任をもっております。子供たちは読んだり、考えたり、見たり、聞いたりするものの通りになるのであります。

自分に与えられる挑戦に対抗するために、母親はたえずゆだなく自分の精神に与えらるる刺戟に目覚めていなくてはなりません。母親自身が自己を改善するならば、子供たちを指導する役に立ちまた家族の者が独立するときに母

親の生活を充すことのできる興味と「才能の表現」とを身につけることになるのであります。

三、婦人と教会活動。開拓者の活動が成功したときにはいつも必ず婦人がひじょうに大切な役割をつとめていました。家庭と家族という「いかりを下ろす所」がなかったら、多くの主な計画は失敗していたことでありましよう。末日聖徒イエス・キリスト教会の始まりから、指導者の方々は婦人の地位が大切であることを認め、一層重要なまた効果のある表われとなるために教会の婦人たちを組織しました。

婦人たちは教会の補助組織が立派に運営されるためになくてならぬ存在であります。また家庭にあるのは大きな影響力となり、もしも婦人というものがなかったなら、完全な神権の祝福はこの世に於て永遠にわたっても実現することができません。

教会が成長するにつれて、扶助協会は次第に大きくなる婦人の要求と、全教会員の同情ある理解とを充すほど成長しました。神権者の呼び声に応じて、教会の姉妹たちはすべての補助組織に於て立派な働きをしております。姉妹た

ちの働らきの手は宣教師、神殿および系図の探求にまでのびています。

教会のプログラムに見られる姉妹たちの活動は、神のみ国のためにすべてを捧げているあらわれであります。教会の姉妹たちのために用意してある祝福は、神のみ国を強めるために捧げられる努力に応じても与えられるのであります。神権に属する祝福は一つのことごとく忠実な姉妹のために解放されています。もしも姉妹たちが、福音計画の中で示してある命令に従って働らき、生活をするならば、必ず姉妹たち自身とその家族の人々に幸福が授けられるにちがいありません。時と状態と神のみことに従って、正しい人々には必ず約束された数々の祝福が授けられるにちがいありません。

討論のための考え。

(一) 毎日の生活の幸福にとって、服従のおきてはどれほど大切ですか。

(二) 結婚に成功するには、考えることと計画することとがどれほど大切ですか。

(三) 完全な福音計画と、今この地上に於ける喜びと幸福との間にど

のような関係がありますか。福音計画の中にある幸福の約束は、来世とどのように関係していますか。

仕事会「態度ふるまい」

考察第八「ことばのつかいかた」

目的——番よい行儀を身につけるようにはげますこと。

一番大切な行儀の法則は、主として、自分のことを言わないことです。自分については善いことでも、悪いことでも、善くも悪くもないことでも、ごくわずかしかなわれないか全く言わないこと。自分についての善いことはいふべけれど、自分についての悪いことはきざだから、善くも悪くもないことはつまらないから、一切何も言わないこと。

自分の利益と楽しみを、ほかの人たちの後にせよということの重要性をもう一度強調します。このレッスンでは会話と、紹介と、電話口での応対と、そのほか二人以上の場合について考えましよう。ほかの人たちのことを第一に考えなさいという注意のことばは、うるさいと思われるかも知れませ

が、もしも良心的に実行するならば、ことばのやりとりについてきめてあるいろいろな規則は一層たやすく守れるにちがいありません。

「正餐の卓での会話」

正餐の卓での会話は、主人役がまず自分の右に着席している婦人に話しかけ、ついで女主人役が自分の左に着席している紳士に話しかけることになっています。つづいてお客さまがテーブルのあちこちでこの例にならうことになります。誰も彼もがこのエチケットをよく知っていると、食卓の会話が順調に行われて一人もほっておかれることはありません。食事の途中でこの手順が逆にされま

す。そうするとこの社交上の礼儀に通じているお客さまたちはそれに協力して、言く会話を移します。もちろん、これは厳格にしなくてはならないことではなくて、頭の中でするように覚えておけばよいことであります。

私たちは月並みになっている言葉で会話の口火を切ることには心をわすらす必要はありません。実際にそれらは世俗のだと思われなくても知れませんが、「よいお天気でございます」とか、「みご

となお部屋のかざりつけてございます」とか、「時の人」とか「時のニュース」とかを話して仲のいい会話がすべり出します。しかし一座の人々はみな、ほかの人々に聞いてもらえる良い思想を心に満たし、それからいろいろな情況を利用して会話を旨く行う義務をもっています。

社交上の会話ではいつもほかの人の話に優先権を与え、口を出して話の腰を折るようなことはいけません。聞き上手はいつも楽しいことであるのを忘れてはいけません。と言ったとて、主人も客も始めからおしまいまで、うんとすんとも言わないことは失礼であります。その交わりに興味を持ち楽しんでることを示すためにでるだけの努力をすし、自分も話を一層はずませてますます楽しくなるようにしましょう。機会があれば、話し相手になってりこうに説明をしたり質問をしたりしましょう。会話の技術は結局ことばのやりとりであるからです。

「電話での応対」

電話のベルの音は、あなたが待ちもくれていることの性質に応じて、ぞくぞくとする嬉しさを伝え

たり、ひやっとする驚きを伝えたりします。あなたの返事のしかたも、あなたの声の出し方に応じてこれと同じ反応を起します。電話で応対をするときには、自分の心にある心配や時間の切迫や家庭の事情による問題などが相手ににとられるような声の調子を出してはいけません。これを避けるには、電話のベルが鳴っているときにどんなにたづいていようと、受話器をはずす前にまず深呼吸を一つして、十分な落ちつきをもつて、いや強いて落ちついてでも親しい快活な声の調子で応対をしなさい。

電話は、家庭での用い方によって「祝福」にもなれば「のろい」にもなります。私たちの仕事の上のことも、社交上のことも、さては宗教上のことでさえ大部分電話で伝えられますから（また近ごろはあのうるさいコマーシャルさえもかかってくるのですから）正しい電話のあつかい方を承知しているのはよいことです。

私たちは電話の向う側に誰が出ていのか少しもわかりません。実際、それは名前も知らない選挙の勧誘員であったり、ひじょうにあなたをよく知っている人であったり

します。それでありますから、電話口での応対はけっして無礼であつたりぶつさらばうであつたりしてはいけません。あなたの人からはあなたの声の調子と電話口での応待によってきめられますから、この点注意をしないではいけません。注意して伝言を受けてこれを正しく伝えなさい。

自分の家の人々が度々会っている親しい友だちのほかは、電話をかけるときに自分をはつきり相手に知らせなさい。「こちらはスミスでございます」だけでは十分ではありません。向うの人は何人も「スミス」という人を知っているかも知れません。また自分の名前だけを言うことも正しくありません。「こちらはスーザン・スミスでございます。ミセス・ブラウンでございます。また電話でよび出しておいでから、出てきた相手に「どなたですか」というのはひじょうに不注意なかけ方です。「これは〇〇番でございますか。私スミスさまにお話したいのですが」と言った方がよろしい。電話をあまり長くかけてはいけません。話が終ったら「ありがとうございます」とか「ではごめん下さい」とかあいさつをす

るのはいつでも考え深いやり方です。

「紹介」

上手な紹介をする秘訣は、敬意をはらうべき人の名前をまず言うことを忘れないことです。ふつう女の人の名前をさきにするのでありますが、教会の幹部または高位高官の人が居られた場合には、この人々の名前をまず言います。紹介の仕方は、こまかいことは略して単に「ジョンズ夫人、この方はアンダーソンさま」と言えば十分です。

紹介をする人は、一人一人について手短かに今何をしているかなどを説明して、お互いにもっと自由に話し合えるように力を借すがよろしい。たとえば「メアリはうちの支部の扶助協会の会員です。ジョン、あなたはまだ日曜学校の先生でしたな」などと言ったらよいでしょう。

現在意義のあるエチケットの法則をふり返ってみるのは有益なことであります。誰も彼も、知らないうちに自分の生活へ入りこんでくる好ましくない性癖やゆるんだ行いなどに心すべきであります。私たちが一層安定した心の優しい親切な人となるために、またほか

の人々と調和して仲よくくらして行くために、自分を改善する努力は、それが何であつても本当に価値のあるものであります。

訪問教師のメッセージ

一九六二年五月

メッセージ第四十「引つぎき確乎として待ち望め」

「教義と聖約」第四十九章

二十三節

目的「堅実であることが人格の特徴のうち最も大切なものの一つであることを示す。」

「確乎たること」は主なる神にも人間同志にも愛される性格上の特徴であります。「確乎たること」、「頼みになること」、「忠実であること」、「堅実なこと」などはみな同じ意味を表わしている言葉であります。そしてこれらは堅い決意で健全な原則を守りぬくことを示しています。「確乎たる」人々は、誘惑や障害に直面しても全くぐらつきません。「確乎たる」ことは、何か事を成しとげるためになくてはならない大切な要素の一つであります。もしも人がこの性質をもっていないならば、その人は必らずぐにぐらついて、一旦手をつけた

ことを終りまで耐えしのんでやりとげる忍耐がありません。

「確乎たる」性質と確信とは密接な関係を互いにもっています。

人は固く守るという強い確信をもっていないなら「確乎たる」態度であることはできません。これを福音の場合について言うなら「確乎たる」ことは、正しいことについて強い確信またはゆるがぬ証詞を得、次にこの確信と証詞に従って生活をする勇氣と意志の力をもつことであります。

或る慈愛にみちた父親が、その第九十四の誕生日に当り、家族の者をよび集めて彼の尊い知恵の利益を皆の者にわけ与えました。

「確乎たる」ことについて、この父親はその子供たちに向つて、「人生を長い目で見たときに、人にとつて一番大切なものは、人生の暴風雨がまともになぶかつてきたとき、けつして屈服しないという確信であり、また正しいことのためにいつも「確乎」と立っているということである。この人生の戦いに於ては、最後の本塁まで戦いぬくという資格が何よりも一番大切なことである」と勧告をしました。

逆境にあつても「確乎」として

動かなかつた最も典型的な例は、旧約聖書にあるヨブの物語の中にあります。ヨブは神をおそれる正しい正直な人でありましたから、

神はヨブをひじょうに愛してめぐみをお与えになりました。ヨブは正しかったのでその国で大そう栄えました。ところで、サタンは主なる神をあざけて、ヨブが正しいのは、主なる神が彼に大きな富と「動かぬ信念」とをお与えになったというただけによるのであると主張しました。主なる神はそれのしもべを試めすために、ヨブの持ち物を全部サタンにおわたしになりました。そこで、ヨブの財産ヨブの子供たち、さてはヨブの健康さえ一つ一つとり去られてゆきました。しかしヨブはこれらの苦しみのすべてに直面しても全く「確乎」としてかわりませんでした。ヨブは自分の確信をすこしもぐらつかせることもなく、また主なる神に対する忠誠の念をぐらつかせることもありませんでした。ヨブはその心を堅く固く守つてかえす「わたしのくちびるは不義を言わない、わたしの舌は偽りを語らない。わたしは死ぬまで、潔白を主張して止めない。わたしは堅くわが義を保つてすてない。……」

と主張しました。(ヨブ記二十七
〇四—六参照)。

ヨブが「確乎」として終りまで
変らなかつたのは、ヨブにしま
りした証詞と不動の確信があつ
からであります。ヨブは彼の贖
主が生きてましますことをはつき
り知っておりました(ヨブ記十九
〇二十五参照)。

もしも私たちが「確乎たるこ
と」、「忠実にして変りのないこ
と」を身につけて生活したいとね
がうならば、私たちは正しいこと
の確信を強くしなければなりませ
ん。これを基にするとき、私たち
は不安定なことぐらつくことを免
かれて「疑う人は、風の吹くま
まにゆれ動く海の波に似ている」(ヤ
コブの手紙一〇六参照)というこ
とを悟るにちがひありません。

私たちは「教義と聖約四十九〇
二十三」にある聖句を守ってこれ
を日常の生活で実践しようではあ
りませんか。私たちは善き隣り人
であるために、親切で理解のある
ために、またほかの人々と教会員
とに献身的の働らきをするために
「引つづき確乎として」、「変るこ
となく忠実で」あるうではありま
せんか。

「神学」 一九六二年五月一日 教義と聖約 第四十課「神の御国を第一に おけ」

(教義と聖約 第六章)
目的—十字架を負うことの重要性
を強調する

今年勉強した「教義と聖約」の
中にある啓示は、千八百三十一年
の三月から六月までの四ヶ月に予
言者を通して授けられたものであ
ります。私たちはその中で当時
「奉獻の律法」が行われておりま
したが、聖徒たちは怠惰と利己主
義であつたために悔改めよと言わ
れていたことを知りました。この
レッスンで学ぶ啓示は、当時の或
る人々にも学ぶ或るグループにも
悔改めを命じた啓示であつて、主
として「奉獻の律法」を実行する
必要から生じたのであります。
(さらにこの背景となつてゐる事
実を知るには第三十七課を参照の
こと)。

とくに第五十六章の啓示は、ト
ーマス・B・マッシュがその使命
について伺つたために与えられた
啓示であつて、マッシュの同僚で
あるエズラ・テールが啓示によつ

て召された伝道の務めに出なかつ
たためにこの啓示が与えられまし
た。(教義と聖約五十二〇二十二
参照)。

今記したように、エズラ・テ
ールが主の命令に背いたことを背景
として、また彼が「奉獻の律法」
に完全に従わなかつたことから起
つた別の事情があつたために、
(教義と聖約五十六〇八—十参
照)、主なる神は啓示を下して、
主の怒りは叛く者たちに対して燃
え、この叛く者たちは主なる神が
「国々の民に怒りを下すべき裁き
の日」に彼らはわが腕とわが憤りと
を知らん」(五十六〇一参照)と
聖徒たちに御旨をお知らせになり
ました。

「汝の十字架を負え」

叛く者たちに関するこの御言葉
につづいて、キリストに従う者で
あると公言するすべての人々に必
要な大切な真理が強調されまし
た。私たちの救いは、私たちが救
い主の御言葉に従う程度によつて
定まります。救い主の御言葉に従
わぬ人々は「日の栄えの王国」
に入ることができません。

この真理は次のように言つてあ
ります。すなわち、「おおよそ自己
の十字架を負いてわれに従わんと

せず、またわが誠命を守る心なき
者は救われることなからん。見
よ、主なるわれ命ず、命に従う心
なき者はわが時至らば断ち切らる
べし。わが命を出したる後、而も
この命破られたるなり」(教義と
聖約五十六〇二—三参照)。

人はこの御言葉が全く大切であ
ることを考えるとき、人間が善悪
を選ぶ自由意志をもつてゐること
を思い起します。人間は自分のし
た選びに對し、自分を支配してい
る律法に従つて責任をもたなければ
なりません。エズラ・テールの
場合と同じように、末日聖徒に對
しては、その従う律法につり合つ
た祝福を与えるという約束をもつ
て数々の誠命が与えられます。神
が与えたもう数々の誠命は、人が
最高の救いに達するさまたげをふ
みこえて行くようになることので
きる機会であります。もしも神の
誠命を破つてしかも悔改めをしな
いなら、誠命を破つた者は時がく
ると神の王国から断ち切られると
主なる神は仰せになってゐます。
ところで、「十字架を負う」と
はどんなことでありますか。この
質問の答えを得るために役に立つ
のは、この「自己の十字架を負い
てわれに従わんとせず云々」とい

う言葉に關係のある聖句をしらべてみる事です。「十字架を負う」とは明らかに、忠実にまたすなおに救い主に従つて奉仕と奉獻とをすることにあります。あるときイエスはペテロを叱つてから

「だれでも私についてきたいと思うなら、自分をすて、自分の十字架を負うて、私に従つてきなさい」とお教えになりました(マタイ伝十六〇二十四参照)。

予言者ジョセフ・スミスは靈感によりこの戒めのことばにつづけて「さて人が十字架を負うとは、その人がすべて淨くないもの、すべてこの世の欲望をすててわたしの誠命を守ることである」と記しました。

キリストの本当の弟子となるためには、どんなぎせいがあつてもキリストに従わなくてはなりませんが、私たちは永遠の幸福を得るにまたげとなる罪と悪い習慣の束縛を破つたと始めて自由になります。主なる神に従ふことはやさしいことです。救い主は、もしも人が罪の束縛から解放されたいと思ふなら、キリストを信することによって、キリストの贖罪を通して罪の束縛から解放されることを知つておいでになりました。救い

主の御言葉は今も昔も同じように本当ではありませんか(マタイ伝十一〇二十八—三十参照)。

次に述べるジョセフ・フィールディング・スミス長老の言葉を讀めばこの問題に關する考えの養いになるにちがひありません。

「或る人が、主なる神の誠命を守ることはむづかしいと告白をするなら、その人はまことに悲しい告白をしている、すなわち自分は福音の律法を破つてい」と告白をしてゐるからである。習慣は容易に身につく。悪い習慣がすぐに身につくと同じように善い習慣もすぐに身につけることができる。もしも人が常習的のうそつきであるなら、もちろんその人は本当のことを言うのは容易でない。もしも人が不正直の習慣を身につけてゐるなら、その人は正直な行いをするのがむづかしい。一度も折りをしたことがない人は、折ることがひじょうにむづかしいにちがひない。これに反して、いつも正直にしている人はうそを言うことがむづかしい。もしも或る人が、いつも正直にしてゐる時何かが不正直なことをしたとしたら、その人の良心はひじょうに声高く叫んでとがめるにちがひない。その人は

悔改をする以外に心の休まるときがないにちがひない。もしも人が折りの心をもっているなら、その人は折ることを喜ぶ。この人は自分のねがいが聞き届けられるにちがひないという確信を抱いて主なる神に近づくことが容易である。完全に福音中心の生活に切りかえて、全収入の二割を常に納めてゐる人にとつては、「自分の一」を納めることは難くない。それであるから、私たちは主なる神が一大真理すなわち、神のみこころを喜んで行ふ者には「わたしのくびきは負ひ易く、わたしの荷は軽い」という真理をお与えになつたことがよくわかる。

「キリストに従え」
ジョセフ・スミスの時代には「十字架を負う」という表現がよく用いられた。私たちは、教會の初期の集會によく出席したニューエル・ナイトが、それらの集會でお祈りをするようにたのまれたとき「彼は十字架を負うて、集會のうちに声を出してお祈りをして見ましよう」と答えた」ということを知っています。私たち教會員はそれぞれ支部や地方部の立場によつて与えられる責任と召しとを受け入れるとき、どれほど「自

分の十字架を」完全に負いますか。次にマーク・E・ピーターセン長老が、キリストに従う者たちについて書いた記事があります。

「もしも人が本當にキリストに従うなら、まず神の國を求めよというキリストの忠告を受け入れるにちがひない。この言葉は、生活の中で何よりも先に神の國を求めよということの意味している。人は「まことの神をさしおいてほかの神々をもつてはならない」またわれわれの宗教をさしおいてどのような習慣、性癖、欲望、慣例等も持つてはならない。この道を行こうか別の道を行こうかの決定をする場合に、われわれは主なる神が、キリストに従う者たちに与えたもうた要求すなわち「神の國を第一におけ」という御言葉を忘れないようにしよう」。

私たちの教會に起つた最初の奇蹟は、ニューエル・ナイトがお祈りをする決心をした結果によるものであります。何が實際に起つたかと言うと、ニューエル・ナイトは或る集りでお祈りをして下さいませんかと言われたとき、それこそわたしの御霊につかれた状態となり、予言者ジョセフ・スミスにこの惡靈を追ひ出すことをね

がったのであります。その時予言者は次のように答えました。

「君が私にできると知っているなら心ならずその通りになる。それからほとんどの無意識に私はイエス・キリストの御名によって悪魔を責め、出て行けと命じた。すると直ちにニューエルは口をきいて悪魔が彼から出て消え失せてしまふのを見たと言った。これは、この神権の時代に行われた最初の奇蹟であつた。これは教会の会員によって行われた最初の奇蹟であつて、人によるにあらざる神の力によって為された奇蹟である。されば、神をほめたたえて、御国と御栄えをとしえに「父、御子、みたま」に帰し奉らんことをアメン。」

今や様子は全く変つた。悪魔がわが友から出て行くや否や、ニューエルの顔は平常通りに戻り、体のねじ曲ることは止み、「主のみたま」は彼にくだつて、彼の目を開いて天の願われを見せたもうた。

ニューエル・ナイトはそれから実際に「彼の十字架を負い」、啓示によって命ぜられた通りすなおに自分の義務を行いました。ニュー

エル・ナイトは、トムソン支部の聖徒たちと一しょにのこつて彼らをミズーリへつれて行けと言われまして（五十六〇七参照）。予言者がミズーリへ到着するや間もなく、ナイト兄弟が率いたトムソン支部の人々はミズーリの地へ着いたのであります。これにつづいてニューエル・ナイトは「自己の十字架を負い」ほかの資格で教会のためにいろいろの働らきをしました。

「主なるわれ、取消しをなす」

第五十六章の四節五節六節のところで、主なる神はさきにトマス・B・マーシユ、エズラ・テール、サラ・J・グリフィン、ニューエル・ナイトたちに与えた誠命のあるものを取り消して、この人々にほかの誠命をお与えになつています。このように或る誠命を取り消すのは或る人々にとって奇妙に思われるかも知れません。主なる神には変化がないと聖句に言つてあるからであります（ヤコブ書一〇十七参照）。この啓の中には「この故に主われは、わが意のままに命令しましたこれを取り消す。而して主は言う、すべてこはわが命に背く者の負うべき責任なり」と言つてあります（教義と聖約五十六

〇四参照）。

神の誠命に従うときには必らず保証が得られます。神は、その約束がすべて成就されるものであるとはつきりお言いになりました（教義と聖約一〇三十七三十八参照）。しかし、もしも人が律法をすてるならば神は律法に従ふことにもとづく保証を得る機会をとありあげておしまいになります（教義と聖約八十二〇十、百三十〇二十一二十一参照）。

第五十六章で、エズラ・テールは彼がオハイオ州トムソンの支部と結んだ土地の契約を破つてしまふとしたことに對して悔い改めをするように言われています。聖徒たちはその時「奉獻の律法」を本當に実行しようと努めていたのであります（五十六〇八参照）。

もしも彼が悔い改めないと、彼は聖徒が土地を使うために出した金を返されて教会から断ち切られるはずでありました（五十六〇十参照）。第十一節では、すべての人が律法を守らねばならない、さもなければその責任を負わなくてはならないことを指摘してあります。「たとえ天地は過ぎ行くとも、この言は過ぎ行くことなくして必ず成就すべし」（五十六〇十一参

照）。

今、私たちは誠命の取消しについて論じていますから、ここに言われている真理はこのこととよくとくに大切であります。再び言いますと、人が誠命に従わないと、その人が真に悔改めをしないかぎり神の裁きがつづいてきます。主の御言葉が「過ぎ行かない」という真理はエズラ・テールについてであつても、福音の計画の中に含まれてゐる全人類にはことごとくこの真理が意味ではまるのであります。ある意味で、もし私たちが誠命を守りさえすれば、永遠の幸福は末日聖徒として私たちが自分のものにする事ができます。これに反して、もし私たちが主の御言葉にそむくならば必ず罰を受けるのであります。

この啓示の第十二節と第十三節で、予言者はテール兄弟に償いの金を支払ふ、然るときにはミズーリで予言者は必ず金を支払われるにちがいない。寄附をしてこの費用を支払い予言者ジョセフ・スミスを助ける人々は、ミズーリの地に於いてその報いを受けるにちがいない「その為すところによりて：：報いを受くればなり」（五十六〇十三参照）と言つてあります。

す。

「真の悔改め」

すでにこの啓示で気がついていように、この啓示の中にはとくに名前を指して啓示をたまわった人々以外に、一般の教会員にもあてはまる数々の真理があります。第十四節について言うならば、こ

の御言葉は千八百三十一年と同様に現在でも全部の教会員にあてはめることができるでしょう。

「見よ、主かくの如くわが民に言う。汝ら為すべきこと悔い改むべきこと多し。見よ、汝らの罪はわれに達し、而も汝らは心のままに議らんと欲するによりその罪赦されざればなり」(五十六〇十四参照)。

この御言葉は今日でも教会員にあてはまりますか。この質問は、教会員各自に対する質問であって、教会員でない人々への質問ではありません。この質問に対して何と答えるべきかは、「教義と聖約の注解(英文)」の三二四頁に二人の息子の話を例にとりて書いてあります(マタイ伝二十一〇二十八―三十参照)。

オハイオ州トムソンの聖徒たちと与えられたこの啓示の言葉は、次のように解してもよいでしょう。

う。

「まだこれから立ち直らなければならぬ」と、使徒ペテロに言われたことと同じように、主なる神は、コーレスヴィルの聖徒たちは教会員であるのに悔い改めなければならぬことが多い、と仰せになった。

「奉獻の律法」の下に組織されていなかったトムソンの会員たちの中には悔改めるべきことがたくさんにありました。主なる神が彼らを許しておいでにならなかったからであります。

これらの人々が団体として最もおち入り易かった罪は、自分たちのやり方で物事を議ろうとしたこととであります。

人が啓示の中にある神の言葉を無視して「自らの心で物事を議する」とき、神はそれを真向から反対しておいでになっても、人は神の律法を守るに当って自らの判断を用いることができると、今も多くの末日聖徒が信じているのではないでしょう。

「而して汝ら心に満足せず」

喜びと幸福は、主なる神の誠命を忠実に守る教会員を訪ずれます。福音の良い味をあじわった後神の誠命を守らなくなる人に永つ

ずきのする喜びはありません。第五十六章の啓示が与えられたとき、金持ちの人々が「奉獻の律法」の基になっていることに充分賛成していなかったということは、次のようなおとがめを神がお下しになった理由でありました。

「貧しき者に財物を与えんとせざる汝ら金持は禍なるかな。汝らの富は汝らを腐蝕すればなり。而して主の来りたもう日、また審きの日、また主の怒りの日に汝らは歎き悲しみて言わん。あゝ、刈り入れは終り夏はすでに過ぎ去りぬ。われは救われず」と(教義と聖約五十六〇十六参照)。

主に従う者たちが「日の栄の王国」に入るための準備をするように計画された完全な律法の下では個人とその家族に相応する富の平等があることでしょう。

罪の赦しを保つには、貧しい人々に自分の財産を分け与えることが必要であると臣下たちに教えたのは、モルモン経にのっている予言者ベンジャミンでありました(モーサヤ書四〇二十六参照)。

これを実行するには知恵を要することはあります「お前たちは注意してすべてこれらのことが賢く秩序正しく行われるようにせよ。人がその力以上のことをするのはぜひ必要ではない。しかし、褒美を得るために勉め励むのは必要なことである。従って何事も秩序正しく行わなくてはならない」(モーサヤ書四〇二十七参照)。教会の会員は、貧しい人々に対する責任を果たすために、教会の組織的福祉計画に従って秩序正しく行います。物質的の富もしくは「財産」は人間を腐らせるかも知れません(ヤコブ書「聖」五〇一―三参照)。山上の垂訓で救い主が忠告なさったように、この世の富は神の知恵よりも大切にすることはすのものはありません(マタイ伝六〇十九―二十一参照)。

「富の価値をはかる」
多くの人々がこう思っている富の「ものの楽しみ」は何でしょうか。この世の富にふけること、不正な方法で富を得ようとする富の欲望、隣人をかえりみないこと、これらは富の生ずる悪の一部分にすぎません。財産ができて、相かわらず信仰に忠実であるためには、強い末日聖徒であることを要します。救い主がこの世においてなされたときも復活してからも、勧告をなさった御言葉は、導きを与える法則としていつも従わなくては

なりません。それは「まず神の国を求めよ」という御言葉であります。この世の富は、良い目的のために使う一つの手段になくともなりません。末日聖徒は何事も永遠の立場からこの世の事を考えるという事を唯一つのまことの基準にしないでなりません。この世の富は、まことの教会とその会員とを強めるために使うものであります。人間は神に任命された管理人であつて、この世に属する財産はことごとく神のものであります（教義と聖約百四〇三十一十七参照）。

「富める者と貧しき者とに下るわざわい」

主なる神がトムソン支部の金持ちたちをおとがめになったとき（教義と聖約五十六〇十六参照）、その御言葉は強い調子ではあつたけれども、金持ちだけがおとがめを受けたのではなくて、貧しい者たちもまた欠点をもつていました。この当時「協同制度」が失敗をした重なる原因は、金を持って人々に加えて、多くの人々がその持ち物を貧しい人々に与えなかつたからであります。また第十七章をみて、この失敗に貧しい人々が大いに力を借した数々の原因に

気づいて下さい。

「また真にへりくだりたる心を持たず深く罪を悔いる精神なく、腹に満足を抱かず、他人の物をとることを止めず、その眼は貪りに満ち、己れの手を以て働かんとせざる汝ら貧乏人たちは禍なるかな」（教義と聖約五十六〇十七）。

私たちは貧乏を美德と認めていることが多すぎます。貧しい人々は、貧しいが故に主なる神から祝福されてはおりません。「奉獻の律法」のもつ一つの目的は、この世の物を必要としている人々が、主なる神の「みたま」をもつと豊かに受けることができるようにその人々の生活の標準を上げることでした。貧乏である、この啓示の中で主なる神が仰せになつていような罪におち入ることがあるし、またじつさという結果になるのであります。今日私たちの教会が行つてゐる福祉計画は、貧しい人々がいつも福音の眞の精神をもつておられるようにするためであります。この啓示の中にあらわれてゐる貧乏人は、悔いる心やへりくだつた精神と相反する欲望や行いに満ち、悔い改めたいという心をもつておりません。彼らの罪はどのような罪ですか。彼らは

「腹に満足を抱かず」にこの世の財産を追い求めるので「他人の物をとることを止めず」、「その眼は貪りに満ち」ています。貪りと、うらやみや、ねたみはこの世にありふれた悪徳であります。それで主なる神はまた、彼らは「己れの手を以て働かんとせず」とお言いになりました。

これはこの世にある貧乏のもとでは無いでしょうか。不正直や貪欲や怠惰の中に本当の幸福はありません。全く、これらの罪惡が私たちの性格の一部にのこつてゐるうちは、完全な福音をふみ行つてゐるではありません。

「貧しい者はさいわいなり」それならば、さいわいである貧しい者、もしくは富んだ者はどのような人ですか。清い心をもつてキリストに来る人たちだけが、この啓示の中に予言されている数々の祝福を受けるのです（教義と聖約九十七〇二十一参照）。

心の清い貧しい人たちの受ける祝福はどのようなものですか。「清き心、真にへりくだりたる心、悔いる精神を持てる貧しき者は幸福なるかな、そは彼らは、彼らを救ひ出さんために権能と大いなる栄光とを以て来る神の王国を見

ん。地の豊かなるものは皆その人のものとあればなり」（五十六〇十八参照）。忠実な末日聖徒は、生きている者も死んでいる者も、主なる神が天の王国と共に來つて地上に在る神の王国と合併さるのを見る特權を受けるにちがいありません。

「見よ、主は來らん。その報いを持ちて來らん。而して彼はあらゆる人々に報いを与え、貧しき者たちは悦びを得ん」（五十六〇十九参照）。まことに、「地の肥えたるもの」すなわち地の賜物は、救い主が來りたもう時に、心の清き者たちに与えられ、悦びが地上にあるにちがいありません。その日に耐えて立つ資格のない者たちは、その不正な業のつぐないをしなくてはならないでしょう（二十九〇十一—十三、アルマ書四十一〇三一六参照）。今キリストに來ている心の清い人たちが最後に受ける祝福は何でしょうか。

「而して彼らの子孫は、いつまでも代々限りなく地をつぐ者となるらん……」（五十六〇二十参照）。「日の榮と似た狀態」になつた地球は「日の榮の律法」を守り行つた人々の住家となるにちがいありません。（教義と聖約八十八〇

十五—二十参照。

彼らは、永遠の光榮すなわち永遠の進歩をする機会のあるすべての知識をその身に得るにちがいありません（教義と聖約百三十〇七一—十一参照）。

討論のための質問。

(一)「己れの十字架を負う」とは何のことですか。聖句を引いて自分の答を証明しなさい。

(二)マーク・E・ピーターセン長老によると、キリストに従うとはどういうことですか。例をあげて答えなさい。

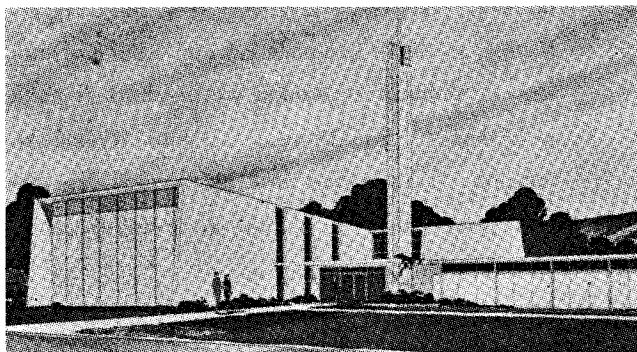
(三)「この神権時代」に教会で始めて行われた奇蹟について話しなさい。また、それがこのレッスンの目的とどんな関係があるか話しなさい。

飼主なる神は、いつその誠命を取り消しなさいますか。

飼本当の悔改めとはどうすることですか。

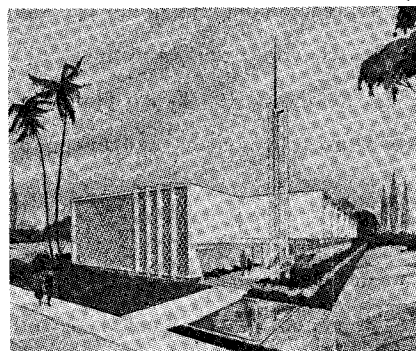
(四) 一つこの世の物に富んでいる人々がとがめられますか。いつ貧しい人々がとがめられますか。あなたがたは、福音計画の中で富がどのような位置を占めているかと思っていますか。

世界各地の建築計画



ニュージーランド

(その3)



ブラジル

EIGO KAIWA TEKISUTO

DAI GO KA

- 1 **Tanaka :** Genzai no kyōkai wa mukashi atta makoto no kyōkai to onaji de nakereba narimasen.
- 2 **Chōrō :** Dōshite gezai demo onaji yō ni kyōkai ga soshiki sareru no deshōka?
- 3 **Tanaka :** Daremo sore wo kaeru kennō wo itsumo motte inai kara desu.
- 4 **Chōrō :** Kyōkai ni tsuite kangaete miruto, Iesu Kirisuto wa goji-shin de gojibun no kyōkai wo otsukuri ni natta koto ga wakarimasu. Sorede Iesu Kirisuto Kyōkai to yobare-mashita. Tanaka San Iesu ga kyōkai wo otsukuri ni natta toki, nan to iu yakuin wo soshiki saremashita ka?
- 5 **Tanaka :** Jūnishito wo erabaremashita.
- 6 **Chōrō :** Sonotōri desu. Korera no Jūnishito wa Kirisuto Kyōkai ni totte kiwamete taisetsu deshita. Epeso sho no naka de Shito Pauro wa kyōkai wo tatemono to hikaku shite ori-masu. Soshite sono tatemono no dodai wa Shito de ari-masu. Dewa soko wo yonde mimashō.
(Tanaka San Epeso Sho 2:19-20 wo yomu)
Ni-jissetsu niwa shito to yogensha ni tsuite nan to kaite arimasuka?
- 7 **Tanaka :** Dodai dato kaite arimasu.
- 8 **Chōrō :** Chōdo anata no ie no dodai ga anata no ie wo sasaete iru yōni, Shito ya yogensha wa Kyōkai ni totte donna mokuteki wo motte imashita ka?

ENGLISH CONVERSATION TEXT

LESSON 5

- 1 **Tanaka :** The church should be like it was then.
- 2 **Elder :** Why will the church be organized the same way even today?
- 3 **Tanaka :** No one would have the right to change it.
- 4 **Elder :** As we examine the Church, we realize that Jesus himself organized his own Church, so it was called the Church of Jesus Christ. When He organized the Church, Mr. Tanaka what officers did he put in his organization?
- 5 **Tanaka :** He chose His apostles, didn't he?
- 6 **Elder :** That's right. Those twelve apostles were tremendously important to the Church of Jesus Christ. In the book of Ephesians the apostle Paul compares the Church to a building and the apostles to the foundation. Let's read that. (Tanaka reads Ephesians 2:19-20)
What does Verse 20 tell us about the apostles and prophets?
- 7 **Tanaka :** They are the foundation.
- 8 **Elder :** And just as the foundation of your home supports it and gives it unity and strength, what was the purpose of the apostles and prophets in the Church?
- 9 **Tanaka :** To keep it strong and united.
..... (V. 1)
- 10 **Elder :** So as long as there were apostles and prophets in the Church, there were not a hundred churches, or even twelve, but just the one Church of Jesus Christ. How were these apostles able to keep the church united?

- 9 **Tanaka :** Kyōkai wo tsuyoku shite tōitsu suru mokuteki wo motte imashita.
 (V. 1)
- 10 **Chōrō :** Kyōkai ni Shito ya Yogensha ga ita aida, juni no kyōkai matawa sore ijō hyaku no kyōkai ga atta wake de wa nakute, tada hitotsu no kyōkai ga arimashita. Dono yō ni shite korera no shito ya Yogensha wa Kyōkaino tōitsu wo tamotsu koto ga dekimashita ka?
- 11 **Tanaka :** Kamisama kara reikan wo uketa no desu.
- 12 **Chōrō :** Sate konnichi no Kyōkai ni oite shito ya Yogensha wa naze hitsuyō deshōka?
- 13 **Tanaka :** Kyōkai wo tōitsu suru tame desu.
Shito ya yogensha wa konnichi makoto no kyōkai ni nakutewa narimasen.
- 14 **Chōrō :** Doshite Shito ya Yogensha wa kyōkai no soshiki no naka de Kyōkai no shinja tachi yori mo taisetsu deshita ka?
- 15 **Tanaka :** Kyōkai no dodai toshite erabareta kara desu.
- 16 **Chōrō :** Kirisuto ga Shito wo erabareta toki, ryōte wo hitori hitori no atama no ue ni oite seinin nasaimashita. "Anatagata ga watakushi wo eranda no de wa nai. Watakushi ga anatagata wo eranda anshu seihin shita no de aru."
 (Yohane den 15:16) to Kirisuto wa karera ni osshaimashita. Te wo oite seinin nassatta toki, Kirisuto wa Shito tachi ni nani wo oatae ni narimashita ka?
 (V. 2)

- 11 **Tanaka :** They had inspiration from the Lord.
- 12 **Elder :** Then why do we need apostles and prophets in the Church today?
- 13 **Tanaka :** To keep the Church together.
Apostles and prophets are necessary in the Church today.
- 14 **Elder :** Why were these apostles and prophets so much more important in the organization of the Church than were the other members of the Church?
- 15 **Tanaka :** Because they were chosen as the foundation.
- 16 **Elder :** When Christ chose these men to be apostles, He laid His hands on each of their heads and ordained them. "Ye have not chosen me, but I have chosen you, and ordained you" (John 15-16), he said to them. Now what did He give them at the time of their ordination?
 (V. 2)

(Vocabulary 1.)

Should be (…de nakutewa naranai), like it was then (sore ga tōji atta yō), be organized (soshiki sareru), even today (konnichi demo, genzai demo), no one would have (tare mo tsuneni motte inai de arō), examine (shiraberu), realize (yoku waku, satoru), organization (soshiki, dantai, kyōkai), chose (eranda), didn't he (sō desu ne), tremendously (hijō ni, kiwamete), compare (kuraberu, hikaku suru), foundation (matoi, kiso), verse (shōku, seiku), keep it strong (sore wo tsune ni tsuyoku tamotsu),

(Vocabulary 2.)

So (sorede), as long as (…aida, …uchi), were able to (…koto ga dekita), need (hituyō to suru), keep together (hanare nai yōni motomeru), so much more important (harukani taisetsu), ordain (anshu seinin, ryōte wo atama no ue ni oite, kiyoi yaku ni ninmei suru)

伝道本部だより

バプテスマ 一九六二年二月

伝道本部だより

バプテスマ 一九六二年二月

阿倍野支部

日根野谷

金子素子

田中敬子

旭川支部

三浦るい子

守田裕子

仲井貞裕子

中田幸江子

笹世秀子

谷ユキ子

恒川啓子

福岡支部

橋本紘子

群馬支部

群馬支部

浅間輝子

樋口好恵子

板橋穀子

祝穀広二子

御崎祐三子

佐藤広子

竹本規子

竹本富子

梅沢光昭

広島支部

仁井英治

大浜佳代

金沢支部

エンドウダイ

甲府支部

謝花智

小林菊江

松縄麻子

小野照子

吉沢えい子

京都支部

坪田幸子

松本幸子

丸山陽子

名古屋支部

平林紀美子

三城恭彦

高木かをる

田中穂積

新潟支部

服部奉子

小林栄子

小林祥子

小山美恵子

水野宣紀

成田洋子

田代昌義

土谷弘子

西宮支部

藤田純二

岡町支部

江座真佐子

城戸慧子

北村浩子

国島真理子

竹中栄子

内野栄子

岡山支部

井上重美

太田昭江

小出佐知子

小樽支部

安斎寿世

朝倉淑子

後藤英克

近藤祐一

奥山弘治

札幌支部

阿部恵美子

石川豊子

砂川尚子

仙台支部

原淵千代子

本多淑枝

中村悦博

斎藤清志

佐藤紀子

東京中央支部

橋本真知子

橋本真知子

早崎敬理

片柳幸吉

西山純子

及川康子

瀬川勉

坪田明男

山口信郎

吉村八郎

東京南支部

北沢由信

森屋澄子

沼田栄子

大森道一

吉川清一

東京西支部

藤本彰

船曳博彰

橋本政弘

門田典子

小泉正彦

三原一彦

鈴木加乃子

和田富雄

柳井支部

後藤千代乃

横濱支部

秋元顕一

平山積男

奈良美恵子

小野篤子

志村篤子

高沢誠子

矢野己和子

横山輝子

那覇支部

赤嶺キシ子

赤数雄

金城幸子

古謝恵美子

松田昌明

桃原孝博

仲村孝進

大城弘子

平良幸助

田里裕子

当山裕進

山城美智子

安村弘

韓国で三十四名

神権

執事

カミシヨウチクニ

タカハシマサノリ

タカハシタツユキ

ホッタトモハル

イケシヨウジ

カワニシヤスヒロ

クワタシノブ

ヨシダジロウ

カタスマサイイチロウ

イノウエコウイチ

スズキシゲル

ヒロシゲジュウゾウ

オガサワラヤスミツ

教師

タテノヨシヒサ

ナカガワアキラ

アンドウオサム

祭司

ウエノヤママスジ

(松本)

(室欄)

(名古屋)

(新潟)

(岡町)

(小樽)

(山形)

(横濱)

(群馬)

(松本)

(名古屋)

(岡町)

支 部 名	1 月受浸者数		2 月受浸者数		合 計		
	兄 弟	姉 妹	兄 弟	姉 妹	兄 弟	姉 妹	合 計
旭 川	2	7	0	7	2	14	16
室 蘭	0	0	0	0	0	0	0
小 樽	0	0	4	1	4	1	5
札 幌	1	3	0	3	1	6	7
群 馬	0	1	5	4	5	5	10
甲 府	0	0	1	4	1	4	5
松 本	1	3	0	1	1	4	5
新 潟	0	0	2	6	2	6	8
仙 台	0	0	2	4	2	4	6
東 京 中 央	3	3	6	4	9	7	16
東 京 北	0	4	0	0	0	4	4
東 京 南	0	0	3	2	3	2	5
東 京 西	3	0	5	3	8	3	11
山 形	1	5	0	0	1	5	6
横 浜	0	0	3	5	3	5	8
阿 倍 野	0	0	1	2	1	2	3
福 岡	0	4	0	1	0	5	5
広 島	4	2	1	1	5	3	8
金 沢	1	1	1	0	2	1	3
京 都	1	0	0	1	1	1	2
名 古 屋	0	0	2	2	2	2	4
西 ノ 宮	1	0	1	0	2	0	2
岡 町	0	0	0	6	0	6	6
岡 山	0	2	0	3	0	5	5
三 ノ 宮	0	0	0	0	0	0	0
柳 井	1	0	0	1	1	1	2
普 天 間	0	0	0	0	0	0	0
那 覇	0	0	7	6	7	6	13
合 計	19	35	44	67	63	102	175

「過去から受ける教訓」

わが教会の歴史の中には暗黒な時代が度々ありました。その最も暗黒な時代の一つの間に、予言者ジョセフ・スミスはなぜ悲惨な状態が教会をなやますかについて深く心を痛めていました。ミズーリに居た聖徒たちはその家から追いはらわれ、財産をうばわれ、収獲をことごとくだめにされていました。予言者は心配のあまりなぜこのような不幸が神の教会の会員をおそうのかそのわけを主なる神さまに伺いました。

その時主は「彼ら、彼らの神なる主の声に耳傾くること遅かりし故に、彼らの神なる主は彼らの祈りに耳傾けて事ある時に彼らに答うることを遅くす。事なき時に、彼らわが助言を軽んじたり。されど事ある時は、彼らやむを得ずわれを探し求む」と仰せになりました。（教義と聖約百一〇七八参照）

そして主は、彼らは神の言葉に従わない故に口論、けんか、むさぼり等の罪を犯しその罪を犯す故に「彼らのゆずりを汚せり」と仰

せになりました。私たちはまことに過去から大きな教訓を受けます。ただいま数えあげた以上に私たちのゆずりを汚すものがたくさんあります。あなたがたたちは安息日に畑に出て働らくことが永遠の豊かな生産を保証すると考えますか。また聖日に狩りに行ったり釣りに行ったりすることが地の豊かな生産を増すでしょうか。私たちが礼拝をしていなくてはならぬときに、遊樂地や高速道路に人や車が一ぱい出ていることは私たちの靈性を磨くことになるでしょうか。豊かな収獲や地の豊かな産物の中から十分の一を主に納めないでいて、わざわいから守られるでしょうか。もしも私たちが自然の資源を浪費し、自然の美しさを破壊したら、それらのものから受けるめぐみを期待することができでしょうか。

予言者エノクは、彼の時代から時の終りに至るまでの地球の歴史を、示現の中に見たと泣きました。エノクは「われは苦しめり、われは疲れたり、わが子供らのよこしまなるによる、何時の日かわれ休息せむ」と地の中から呼ばれる声を聞きました（高価なる真珠、アブラハムの書七〇四十八参照）。

モルモン開拓者たちが始めてロッキーの山

中へ入ってきたとき、彼らの義しく忠実であることをごらんになって主はもろもろの元素（地と水と火と風と）をおしずめになり、平安な時を彼らにお与えになりました。これと反対に、また主は聖徒たちの住んでいた或る地方を目でりと飢饉と疫病とによって荒れはてたところにしておしまひになりましたが、これらの悲劇は、主の民たちの不従順と悪事との結果生じたのであります。

今や世界は悪に熟しております。多くの人は神を忘れてしまっています。また多くの人は地を汚す悪癖にふけています。また神の声に耳を傾けることの遅い人々もいます。これらの人々は神を呼び求めることも神の誠命を守ることもしません。或る地方ではひどい日照りに苦しんでいます。ほかの地方は洪水のために荒らされました。私たちは主なる神が私たちと結びたもうた契約をつねに忘れることなく、お護りを受けるに足る生活をしようではありませんか。

「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど汝らわが言うところを行わずば汝ら何の約束も受けず」（教義と聖約八十二〇十参照）。

練習の讃美歌

六月

一〇五番

詩篇十七章八節〜九節に「ひとみのようにわたくしを守り、みつばきの陰にわたくしを隠し、わたくしをしえたげる恵しき者からわたしを囲む恐しい敵からのがれさせて下さい。」とあります。この聖句と一〇五番の歌詞をよく読んでから歌うようおすすめします。ダビデのごとく、心をこめて歌いましょう。

メロディーは三段目が変っているだけで他は全く同じです。この様に単調な歌は遅くながちですからテンポに注意して普通歩くのより少し速めに歌います。強弱は自由につけてかまいませんが、やはり三段が強くなるのが歌いやすいと思います。

ソプラノ以外のパートは単調なメロディーをたすけるように少々複雑です。

まずアルトが問題なのは、二段目の第三小節にシャープがつき、その次でまたナチュラルがついて音がもどっています。ここを正確に歌って下さい。次にテノールですが、一段目の第三小節のフラットのついている音に気をつけてください、二段目はシャープがつい

たりナチュラルがついたりなかなか歌うのに骨がおれそうですが、よく練習しましょう。

ベースは三段目をよく習って下さい。

シャープやフラットがついている楽譜は、一見大変そうですが歌うとそれほどむづかしいです。どうぞ、メロディー以外のパートも歌ってみて下さい。

礼拝の讃美歌の時、自然に合唱ができればどんなに素晴らしいことでしょう。

指揮は、六拍子でこまかくとり、二拍子でとる方がいいでしょう。

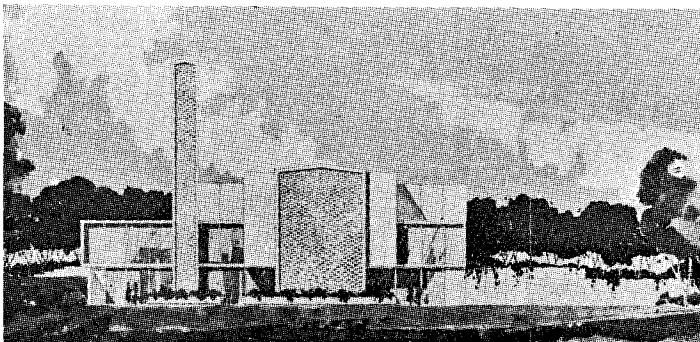
支部に聖歌隊のあるところは、なるべく出席して、讃美歌を美しく歌えるように練習してください。

七月の練習の歌 八九番

子供の日曜学校讃美歌 四番

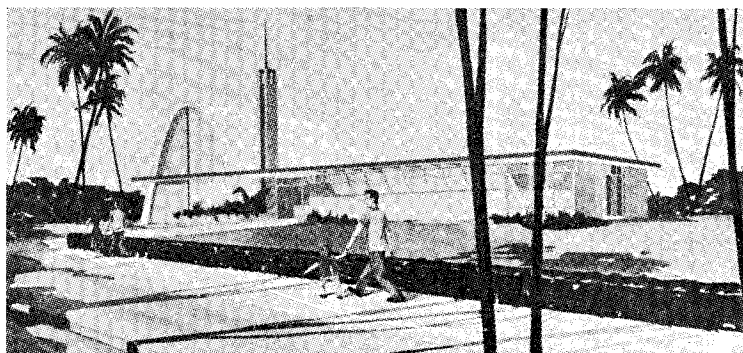
先ず先生がよくメロディーを覚えて、正しく子供たちに教えてください。指揮は二拍子と同じです。二段目のフェルマータは指揮者が適当に長さをきめますが、あまり長くしない方がよい（三拍ぐらい）二番の二段目「なにかのうちに」を「なにかのおちに」とならないように気をつけてください。楽しそうに歌いましょう。七月子等は歌う四番

世界各地の建築計画



フランス パリに建てられるステーキ部センター

その4



上 カナダにたてられた教会堂

下 南アフリカにたてられる教会堂

その 5

世界各地の建築計画

編集後記

▲山や野に美しい緑がみられる時候となりました。特にその緑の色が一段と彩やかに印刷されている折込み頁に今年中に建てられるという教会堂の完成図をのせました。

とくに今月は建築特集をして世界各地にわたる建築計画の一端を紹介しました。

日本の多くの支部の共通の問題であると思われる集會場の問題も、教会の建築委員会ですらとんとん計画され、やがてその問題も解消される日が近いと思います。

▲短歌、和歌、俳句など文芸物の原稿を募集しております。必ず支部名、職業、年令、氏名を記入の上投稿してください。

宛先 東京都港区青山北町六―三四

末日聖徒イエス・キリスト教会

▲四月号より練習の讃美歌は南城姉妹より東京北支部の山岸姉妹に引きつがれました。

(K)

月刊「聖徒の道」第六巻第五号

一九六二年五月一日発行

実価 一カ年 六〇〇円

半カ年 三〇〇円

一部 五十円

編集兼
発行人

ポール・C・アンドラス

発行所

東京都港区麻布広尾町十四

末日聖徒イエス・キリスト教会

北部極東伝道部

図 書 案 内

教義と聖約	
高価なる真珠	上質革製合本……………1100円
モルモン経	
教義と聖約	合本……………300円
高価なる真珠	
モルモン経 (新訳)	……………200円
信仰箇条の研究	……………330円
モルモンとは? (新版)	……………150円
完成への道	……………200円
初等協会教科書	……………150円
総合聖句の手引	……………150円
日本系図探究要覧	……………100円
古代アメリカの生活	……………100円
旧約聖書物語	……………150円
家督権の祝福	……………100円
扶助協会手引	……………50円
求道者教育法	……………120円

日曜学校用

宗教と生活Ⅱ	……………150円
よきおとずれ	……………100円
聖書物語	……………150円
福音の実践	……………150円
聖典中の指導者	……………150円
我等の標準聖典	……………200円
古代の使徒	……………150円
福音の紹介	……………200円
シオン山の救い手たち	……………200円
教義と聖約の教え	……………150円

M I A 用

生活の目標	……………150円
モルモン経研究ガイド	……………100円
M I A・エンサイン・ローレルの手引	……………150円
演説が上手になる法	……………150円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌 (新版)	……………400円
子等は歌う	……………100円
レクリエーション歌集	……………400円

……………注文は各支部長へ……………

支部所在地

北海道地方部

旭川

旭川市八条五丁目
MIA集会場 旭川公会堂

室蘭

室蘭市幸町八九
電話(七〇五四)

小樽

小樽市富岡町一ノ三五
電話(二一八二二四)

札幌

札幌市北二条西二丁目

東中央地方部

群馬

高崎市並榎町二七五
甲府市山田町六三

松本

松本市同心町六一二
新潟市中大畑町五五七

新潟

電話(二一八六六〇) 金井方
集会場 中央会館 四階

仙台

仙台市光禪寺通り二八
電話(五一〇八九七)

東京中央

東京都渋谷区八幡通一ノ三四
電話(四〇八一三三〇七)

東京北

東京都豊島区高田本町二ノ一四八七
集会場 日曜学校 武蔵野ドレメ
MIA 徳川生物研究所

東京南

東京都大田区南千束町二四九
電話(七八二一六一三一)

東京西

東京都港区青山北町六ノ三四
電話(四〇二一四〇一〇)

山形

山形市八日市八五〇
横浜市港北区篠原町二九

横浜

電話(四九一八七七二)

西中央地方部

阿倍野

大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
福岡市東葉院二ノ四〇

福岡

広島市古田町古江四〇〇ノ三
金沢市成瀬町二ノ四 野田方

金沢

集会場 農業センタ!

京都

京都市左京区松ヶ崎桜木町一四
名古屋市中昭和区北山町三ノ四一

名古屋

電話(七三二四二一〇)

西宮

兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話(五一〇四二一)

岡山

岡山市豊中市岡町北二ノ一八
岡山市七日市七八

三宮

神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話(八六一二六〇二)

柳井

山口県柳井市今市三九一

沖繩地方部

沖繩宜野湾村野嵩区三三八
沖繩那覇市松尾区一三九

普天間

那覇